門真市橋波口遺跡発掘調査概要

1992. 8

はしがき

昭和62年2月から7月にかけて4次にわたり、本市の西端の本町に位置する「橋波口遺跡」（京阪電車「西三荘駅」南側）の発掘調査を行い、数多くの成果を得ました。本市としましては初の奈良時代の「甕棺墓」、それに平安時代後期のあまり類例のない「穴遺構」など約1,000 点の遺物が出土、年代も弥生時代から江戸時代までの各時代のものがみられ、一括して貴重な資料といえます。

本市の発展にとって、文化は、不可欠の基盤となるものであり、地域に点在する文化遺産の活用・保存などを通じ、地域の文化意識の醸成に努めることを基本目標に掲げています。文化は、現在を生きる人々の思いと過去に先人が残した文化遺産とが交流し合った時、後世へ誇りを持って継承しうるものとして、新しい息吹を持つものとなるでしょう。

このように地域の文化創造の原点をふまえるという観点から、改めて文化遺産の収集と保存・活用に努めていきたいと考えています。

この度「橋波口遺跡発掘調査概要」を発刊するにあたり、関係各位をはじめ多くの方々にご協力をいただきましたことを深く感謝いたしますとともに、今後とも一層のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。

平成4年8月

門真市教育委員会
教育長　中谷　決

例　　言

1．本書は大阪府門真市本町8番及び9番で実施した共同住宅・店舗ビル建設に伴う、橋波口遺跡発掘調査概要報告書です。

2．調査にあたっては、原因者の方々に多大な協力を得ました。

3．現地調査は、門真市教育委員会社会教育課（現市史編さん課）宇治原靖泰が担当し、昭和62年2月17日に着手し、同年7月9日に終了しました。

4．本書の編集は教育委員会で担当したが、観察表作成には木嶋澄子も参加しました。

5．調査・整理には、寺町節生・新谷真範・秋山由紀・畠中順子・宮本順子・田中順子・小林秀隆の協力を得ました。

6．調査・整理にあたり、水野正好（奈良大学）・田代克己（手塚山短期大学）、菱田哲郎（京都大学）の各氏よりご教示を得ました。

ここに記して感謝の意を表します。

なお、本書は原因者（四者）で発行しました。

本　文　目　次

位置と環境 …… 1
調査の概要 …… 3
1．第1次調査 …… 3
2．第2次調査 …… 4
3．第4次調査 …… 5
4．第3次調査 …… 11

挿　図　目　次

図1　位置図 …… 2
図2　第1次調査平面図 …… 6
図3　第4次調査平面図 …… 7
図4　第1次調査西壁断面図（上）・第4次調査東壁断面図（下） …… 8・9
図5　第2次調査平面図・断面図 …… 10
図6　第3次調査平面図 …… 12・13
図7　第3次調査断面図 …… 14・15
図8　墓－1　平面図・断面図 …… 16
図9　井戸－1　断面図 …… 18
図10　灰の詰まった穴　平面図 …… 19
図11　灰の詰まった穴　断面図 …… 18
図12　第1次調査出土遺物実測図 …… 4
図13　出土遺物実測図（墓－1） …… 30
図14　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 31
図15　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 32
図16　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 33
図17　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 34
図18　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 35
図19　出土遺物実測図（灰の詰まった穴） …… 36
図20　出土遺物実測図（溝－1） …… 37

表　目　次

表1　墓－1　出土土器観察表 …… 21
表2　灰の詰まった穴　出土土器観察表 …… 21
表3　溝－1　出土土器観察表 …… 28

図　版　目　次

図版1　第1次調査全景・馬の骨出土状況
図版2　第1次調査　地面に立てられた竹・出土遺物
図版3　第1次調査　噴砂跡・第4次調査全景
図版4　第3次調査全景
図版5　遺構（墓－1　土器出土状況・墓－1　掘方内の足跡）
図版6　遺構（墓－1　北から、井戸－1断面）
図版7　遺構（灰の詰まった穴　南から）
図版8　遺物出土状況・灰の詰まった穴　断面図
図版9　墓－1　出土遺物
図版10　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器小皿　その1）
図版11　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器小皿　その2）
図版12　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器小皿　その3）
図版13　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器小皿　その4）
図版14　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器大皿）
図版15　灰の詰まった穴　出土遺物（瓦器椀）
図版16　灰の詰まった穴　出土遺物（瓦器椀）
図版17　灰の詰まった穴　出土遺物（瓦器椀）
図版18　灰の詰まった穴　出土遺物（瓦器椀）
図版19　灰の詰まった穴　出土遺物（瓦器椀・皿、土師器甕）
図版20　灰の詰まった穴　出土遺物（土師器甕・羽釜）
図版21　溝－1　出土遺物
図版22　溝－1　出土遺物

位置と環境

橋波口遺跡は、大阪府門真市の西端（門真市本町）に位置し、弥生時代中期から近世の遺物が出土する複合遺跡である。

本遺跡は河内潟の北岸に位置し、その沿岸に形成された微高地上に立地する。大阪市の森小路遺跡・守口市の長池町遺跡・橋波西之町遺跡・門真市の普賢寺遺跡・古川遺跡なども河内潟沿岸の遺跡とみることができる。

本遺跡の東から南に接して本町遺跡がある。本遺跡より少し遅れて発見された遺跡であるが、古墳時代から中世の資料が出土している。

また西に接して、弥生時代から近世の資料が出土している橋波東遺跡がある。これらの遺跡は立地、出土資料の状況から見て同一遺跡とみてよいように思われる。

本遺跡の北西に接している西三荘遺跡は、淀川の自然堤防上に立地する別の遺跡と考えられる。

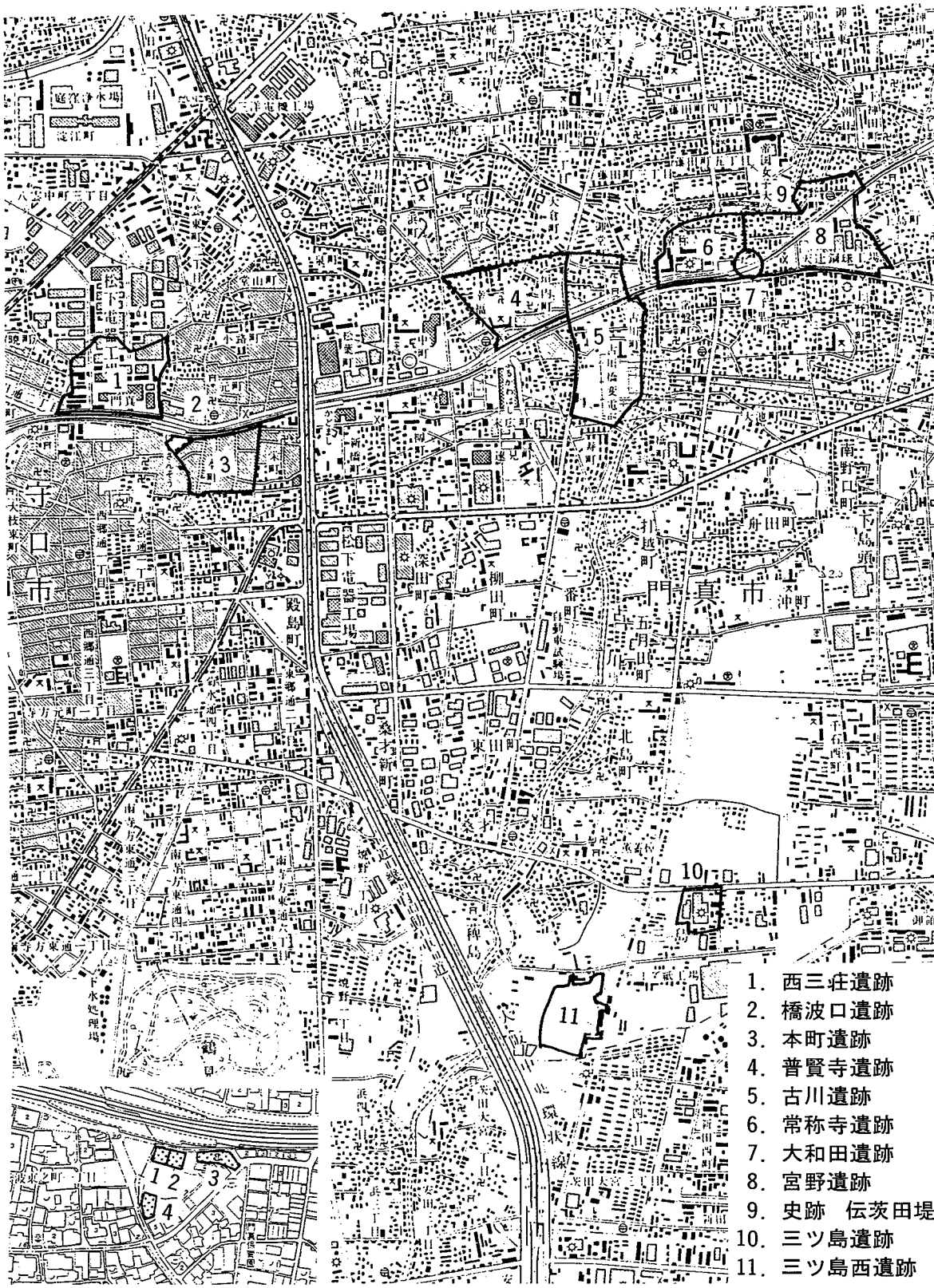

1. 西三荘遺跡
2. 橋波口遺跡
3. 本町遺跡
4. 普賢寺遺跡
5. 古川遺跡
6. 常称寺遺跡
7. 大和田遺跡
8. 宮野遺跡
9. 史跡　伝茨田堤
10. 三ツ島遺跡
11. 三ツ島西遺跡
0
1km

図1　位　置　図

調 査 の 概 要

第１次調査（図２・４　図版１～３）

調査区は遺跡の北西の端にあたる。ここに店舗ビル建設の計画が提出されたため、試掘調査の後、発掘調査を実施することとなった。調査面積は約100㎡である。

調査地の北側は、京阪電車西三荘駅があり、西は守口市橋波東之町に接している。

土　層（図３）

調査地の地表はほぼ水平で、T.P.＋２ｍを測るが、１ｍ近く盛土されていたり、近代以降の洪水時のものと考えられる砂が0.５ｍ余りの厚さで認められる。

本調査地の地山は淡黄灰色微砂層で、遺構は地山のやや上層に形成されているが、複雑な層位を示し、水の影響を受けやすい土地であったようである。

遺 構 ・ 遺 物（図２・12　図版１～３）

３面の遺構面を検出したが、第１面は近世以降で、第２・３面は中世である。報告では第３面を図示し、説明を加えることとする。

溝　北西から南東方向に流れていた溝で、調査地の中央付近で直交する近世以降の水路に切られている。幅1.８ｍ、深さ0.３ｍを測る。瓦器椀・土師質皿などの土器の他、馬の骨が出土した。

竹の列（図版２）　東西方向に数本の竹を一列に地面に立てたものである。竹は先を斜めに落とし、地面にささりやすくしたものである。

祭祀に関係するものと考えられるが、時期不明である。

小　結

本調査は橋波口遺跡で初めての本格的な発掘調査である。しかし調査地の半分近くが近世以降の水路で占められ、明瞭な遺構は溝だけであった。

遺物は中近世を中心に、コンテナ5箱分が出土した。溝からは馬の骨がややまとまって出土しているが、本市で初めてのものである。

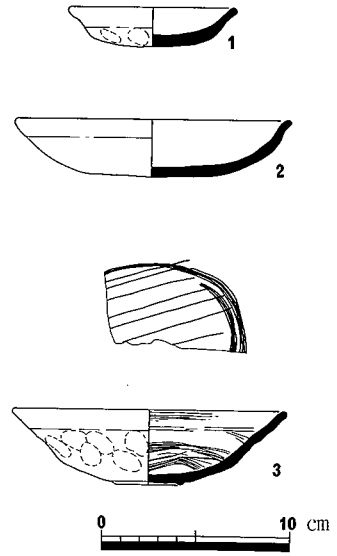


図12　第1次調査出土遺物実測図

調査終了後、地山の砂層にたちわりを入れたところ、噴砂跡を確認した。中世頃の地震の跡とみられる。

第2次調査（図5）

調査地は橋波口遺跡の南西端にあたる。この場所に共同住宅建設の計画が提出されたが、調査前に着工されてしまった。その後原因者と協議を行い、基礎工事で攪乱されていない部分にA～C 3か所の調査区を設け発掘調査を行った。調査期間は昭和62年3月3日から同年3月14日までである。

遺構と遺物

調査区はいずれも一辺が4～2.5m四方と狭小なため、あまり成果はなかった。遺構は、A、B区で溝状の落込を検出した。中世のものと考えられる。

遺物は、中世から近世の土器の破片と馬の骨が出土した。

第4次調査（図3・4　図版3）

調査地は第1次調査の東隣である。ここに店舗ビル建設の計画が提出されたため、発掘調査を実施することになった。調査期間は昭和62年6月29日から同年7月10日までである。調査面積は約130㎡である。

土層（図4）

地表面は、T.P.＋2.1mを測り、ほぼ水平であるが、盛土が南側で約0.5mなのに対し北側では1m程度ある。これは調査地の$\frac{2}{3}$が水路や湿地であったためである。遺構のある南側も、やや複雑な堆積を示し、水の影響を受けやすい土地であったようである。地山は第1次調査と同じ淡黄灰色微砂層である。

遺構・遺物（図版3）

遺構は灰茶色砂質シルト層から径1.0m、深さ0.3mの土壙と径0.55mの素掘の井戸を検出した。どちらも遺物は出土しなかったが、近世以降のものと考えられる。

出土遺物は中・近世土器と近世以降の木製品があるが、図化できるものはなかった。

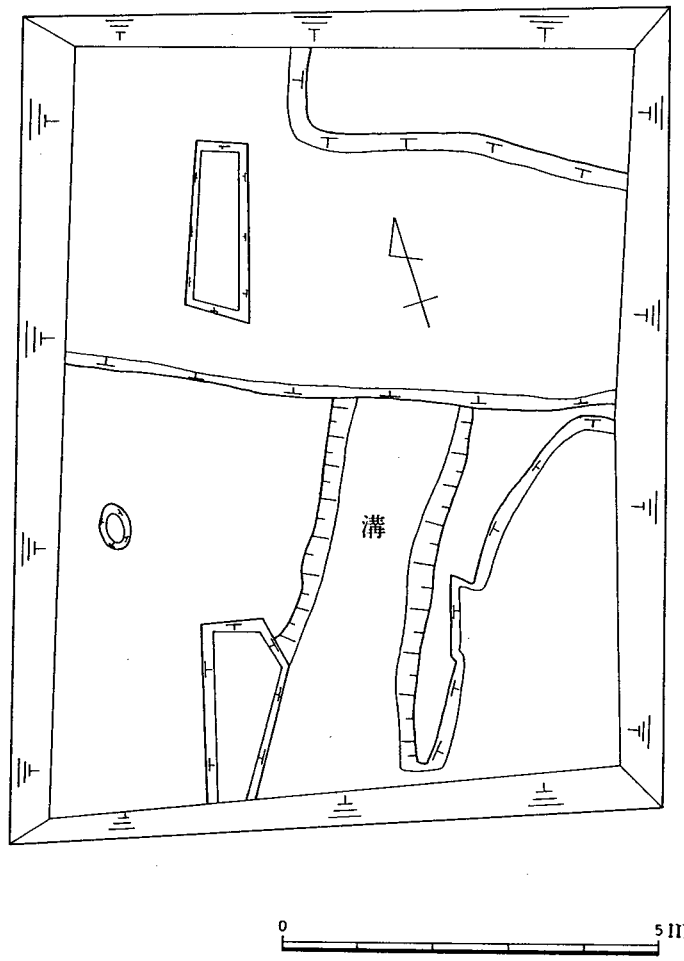


図2　第1次調査平面図

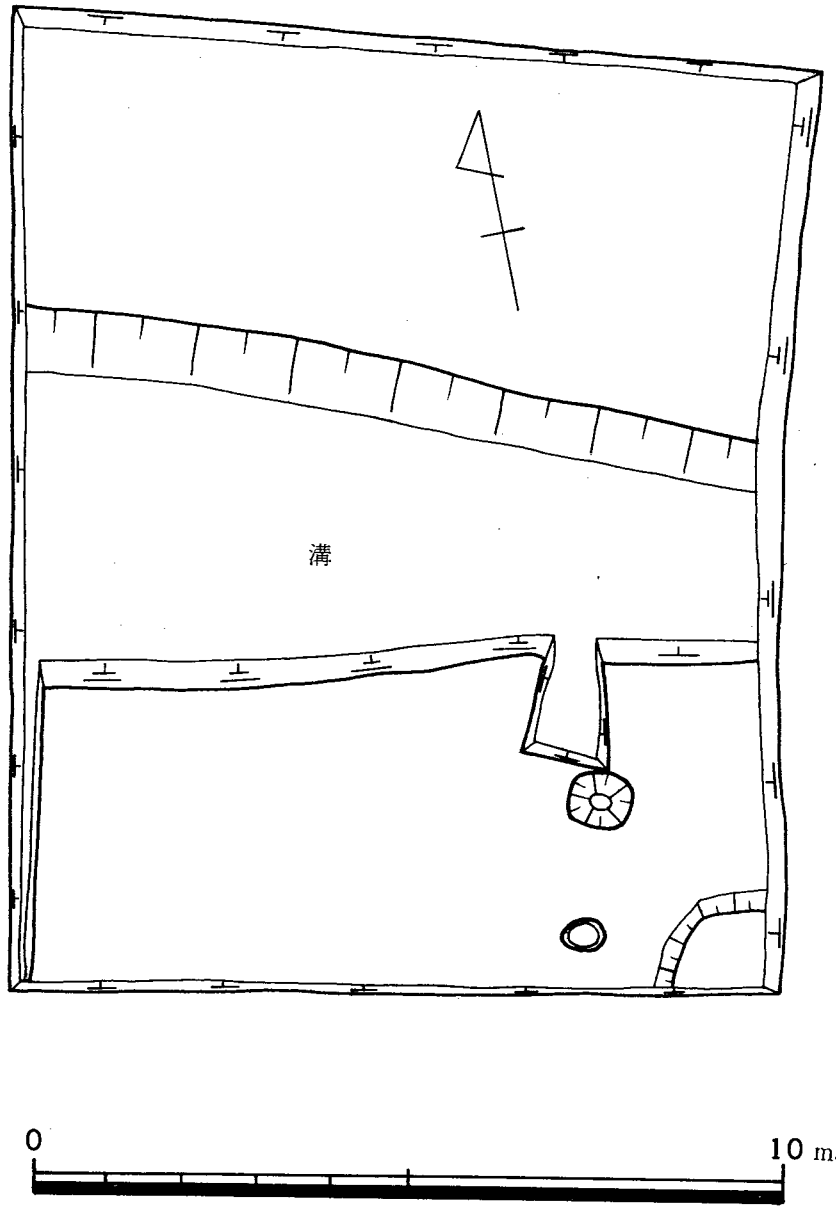
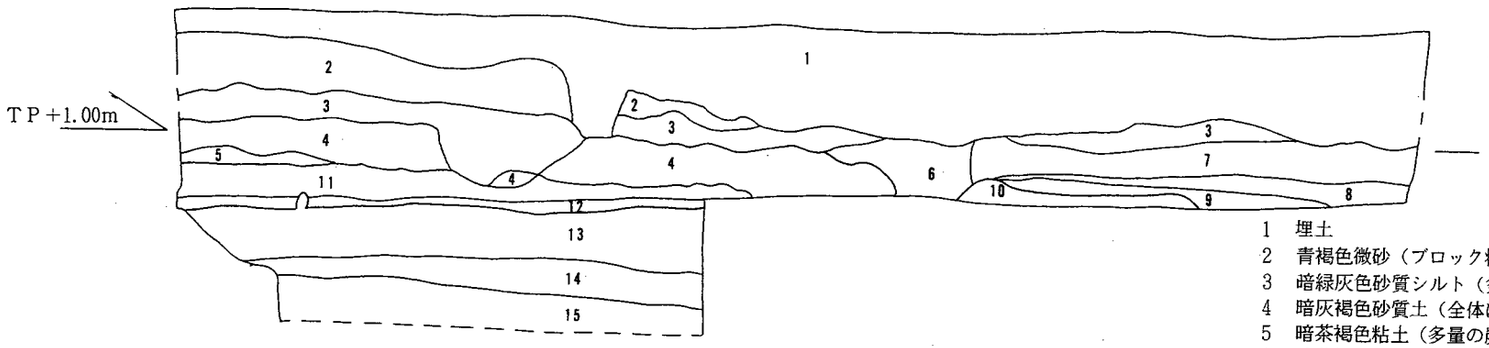
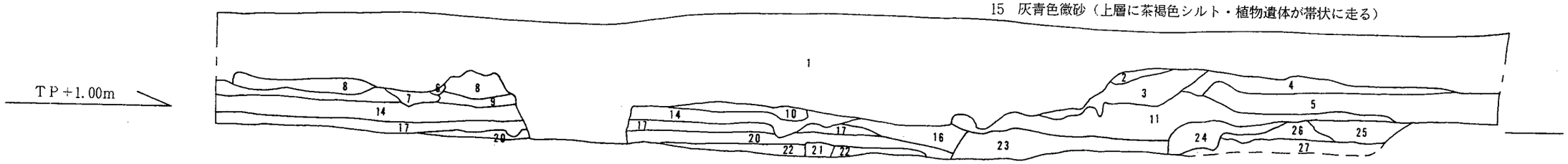


図3　第4次調査平面図



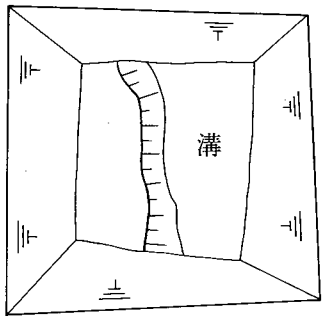
1　埋土
2　青褐色微砂（ブロック状に多量の緑灰色粘土がはいる）
3　暗緑灰色砂質シルト（多量の粒状マンガンが混じる）
4　暗灰褐色砂質土（全体にシルトが混じる）
5　暗茶褐色粘土（多量の炭・若干の粒状マンガンが混じる）
6　暗茶褐色砂質シルト（多量の粒状マンガン１～２㎜の粒混じる）
7　暗緑灰色シルト質粘土（多量の粒状マンガン植物遺体）
8　淡黄灰色粘土（若干の粒状マンガンを含む）　　9　緑灰色粘土
10　暗緑灰色シルト混じり細砂（砂にマンガン混じる）
11　淡緑灰色シルト混じり粘土（多量の炭・植物遺体混じる）
12　淡緑灰色シルト質粘土（植物遺体多い）
13　淡黄灰色微砂（上部に帯状に淡青灰色シルト・植物遺体が走る・多量の金黒雲母を含む）
14　灰黄色微砂（植物遺体多い）
15　灰青色微砂（上層に茶褐色シルト・植物遺体が帯状に走る）



① 埋　　土
② 茶灰色砂質粘土
③ 淡灰緑色微砂（多量の粒状マンガン・若干の金雲母の粉がまじる）
④ 緑灰色粘土
⑤ 灰茶色砂質シルト（多量の粒状マンガン・若干の礫がまじる）
⑥ 暗青灰色シルト
⑦ 淡黄緑色微砂
⑧ 灰褐色砂質シルト（多量の粒状マンガンを含む）
⑨ 灰緑色シルトまじり微砂（若干の粒状マンガンを含む）
⑩ 灰緑色砂質シルト
⑪ 緑灰色シルト質粘土（多量の粒状マンガンを含む）
⑭ 淡灰緑色細砂
⑰ 暗灰褐色シルト質粘土（若干の粒状マンガンを含む）
⑳ 淡緑灰色粘土
㉑ 灰色微砂
㉒ 暗灰褐色粘土
㉓ 暗緑灰色シルト質粘土
㉔ 茶灰色砂質シルト（多量の粒状マンガンを含む）
㉕ 暗灰色シルト（上層はシルト質粘土、下層は微砂、多量のマンガンを含む）
㉖ 暗灰褐色粘土（多量の炭が混じる）
㉗ 淡緑灰色粘土（多量の炭が混じる）

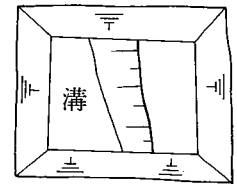
図４　第１次調査西壁断面図（上）・第４次調査東壁断面図（下）

Aトレンチ

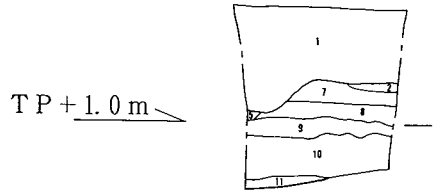


① 埋土
② 緑灰色シルト質粘土
③ 暗緑灰色粘質シルト
④ 暗灰褐色砂混じりシルト
⑤ 暗灰色粘土混じり微砂 } 溝
⑥ 暗灰褐色シルト
⑦ 黒褐色粘土（植物遺体を含む）
⑧ 淡緑灰色微砂（金雲母の粉を多量に含み、植物遺体とシルトが帯状に層をなす）

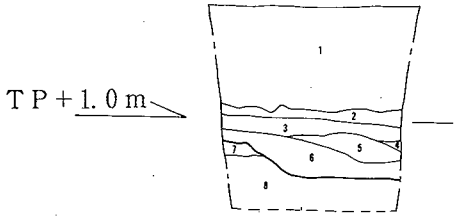
Bトレンチ



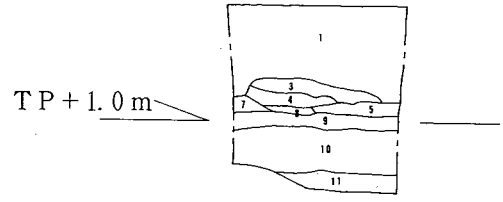
北壁



北壁

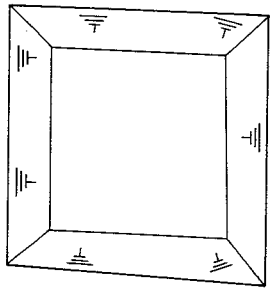


南壁



① 埋土
② 暗灰色土（耕土）
③ 茶灰色砂質土
④ 灰色シルト
⑤ 緑灰色粘土
⑥ 淡緑褐色シルト
⑦ 淡灰色シルト（床土）
⑧ 茶灰色シルト
⑨ 緑灰色シルト質粘土
⑩ 暗灰褐色粘質シルト
⑪ 緑灰色雲母混じりシルト

Cトレンチ



① 埋土
② 暗灰色土
③ 緑灰色砂混じりシルト（若干の植物遺体、1～2㎜の礫が混じる）
④ 暗灰褐色粘質シルト（若干の金雲母、植物遺体が混じる）
⑤ 暗緑灰色シルト質粘土
⑥ 暗緑灰色粘質シルト（多量の金雲母・黒雲母が混じる）
⑦ 淡緑灰色微砂（多量の金雲母・黒雲母が混じる）

北壁

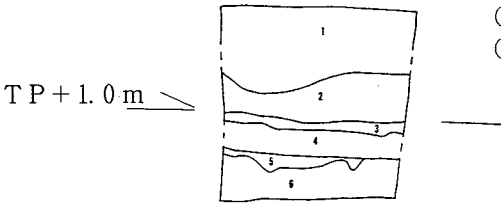


図5　第2次調査平面・断面図（上が北）

小　結

本調査地の$\frac{2}{3}$は湿地・水路で占められ、残りも中世に遡る遺構が見られなかったことなどから、近世頃まで生活に向かない不安定な土地ではなかったかと思われる。

第３次調査（図６～11、13～20　図版４～22）

本調査地は遺跡の東端に位置するが、第１次調査場所と30m程度の距離である。ここに共同住宅建設の計画が提出されたため、試掘調査の後、発掘調査を実施することとなった。

調査期間は昭和62年５月18日から同年６月19日までである。調査面積は約250㎡である。

土層（図７）

調査地の地表はT.P.＋２m余りでほぼ水平である。0.４m余りの盛土を取り除けば中世の包含層となり、安定した堆積をしている。地山は黒褐色粘土および暗灰褐色粘土層で、奈良時代の生活面とみられる。その後、洪水があったようで、調査地の東側で砂が約0.２mの厚さで堆積している。平安後期から中世の遺構が検出された灰褐色砂質シルト、茶灰色砂質土層は削平を受けている。

遺構（図６　図版４～８）

調査地のやや西よりで溝（溝－１）、中央付近で灰の詰まった穴、やや北東よりで井戸（井戸－１）と甕棺墓（墓－１）を検出した。

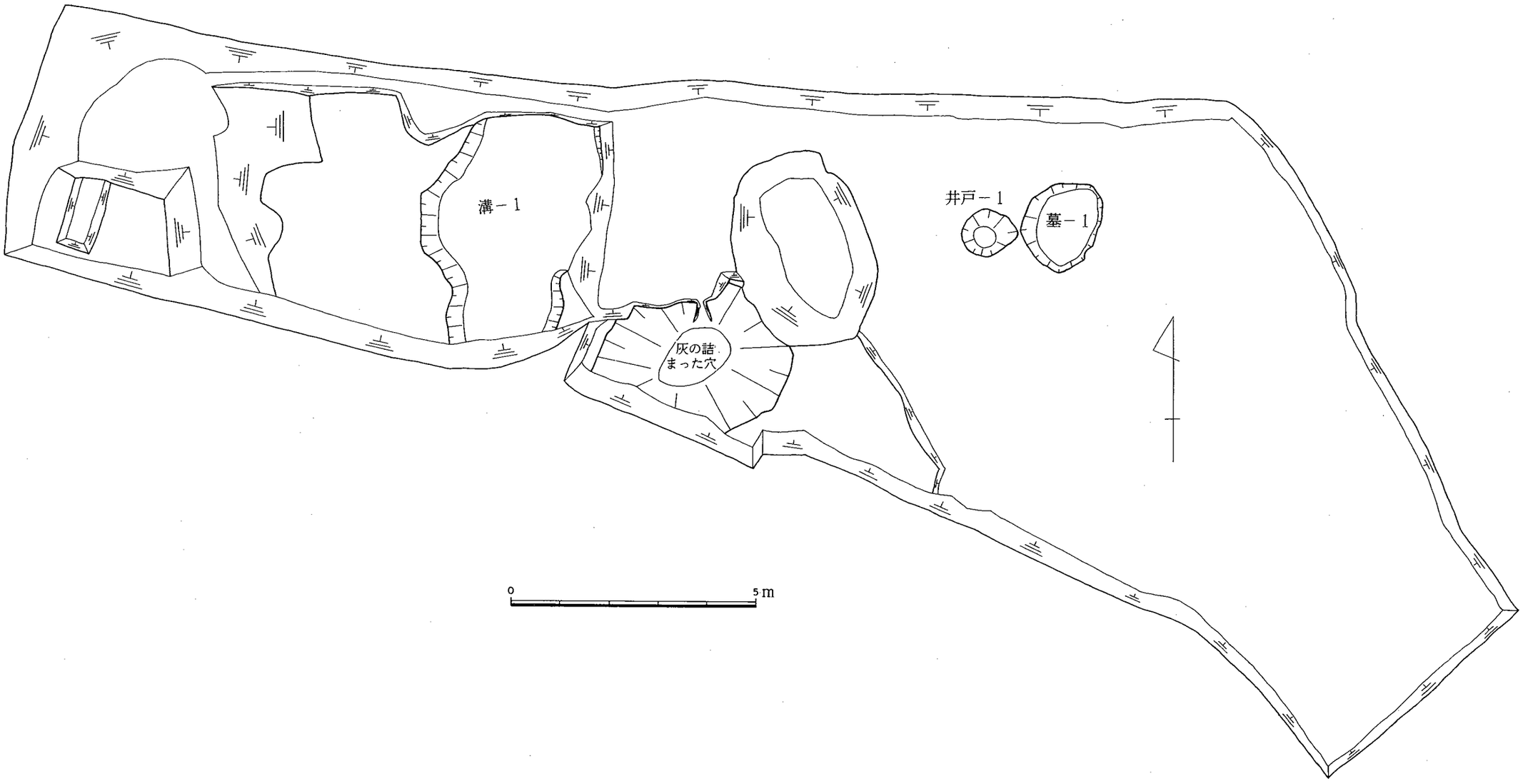
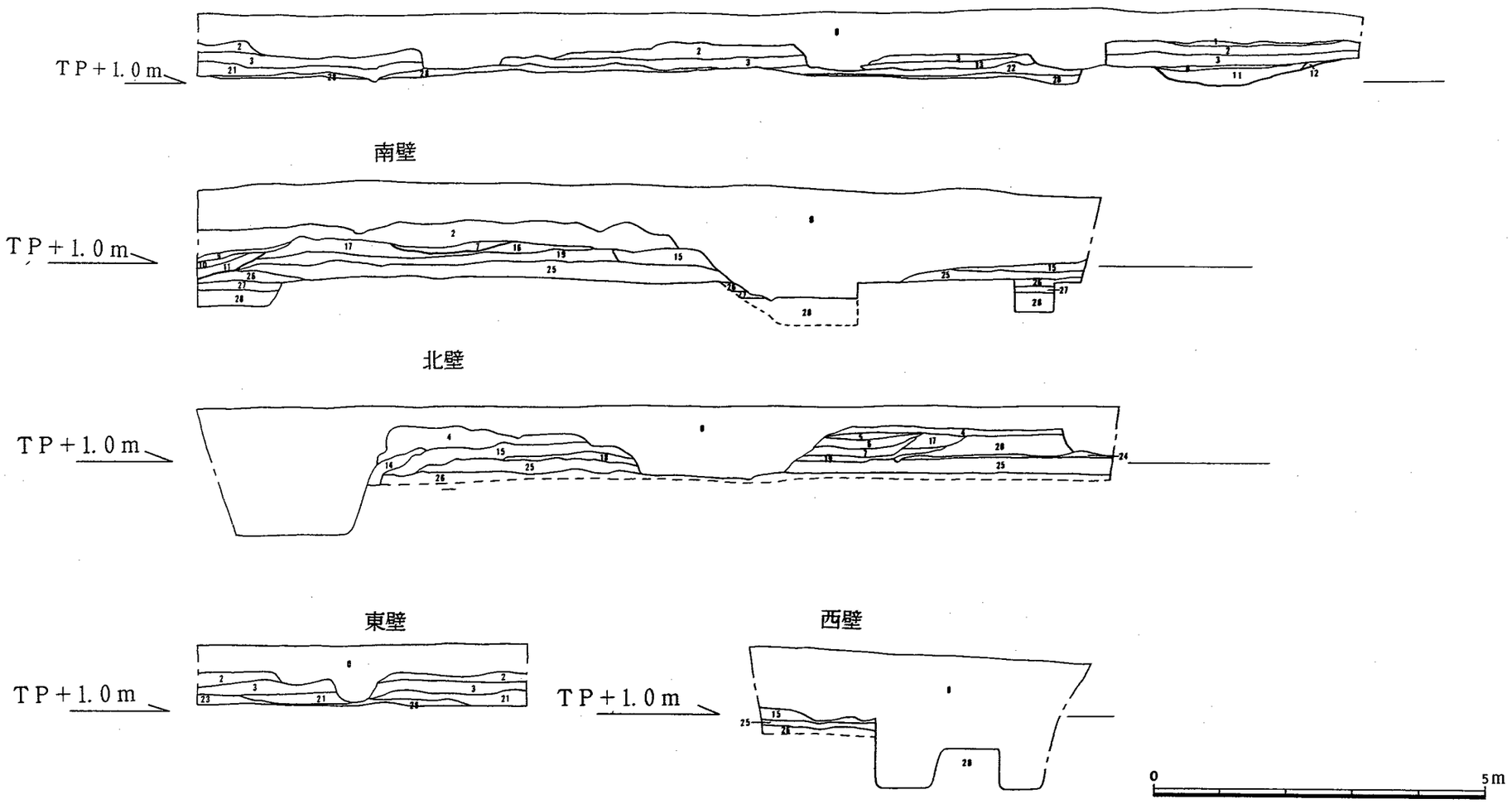
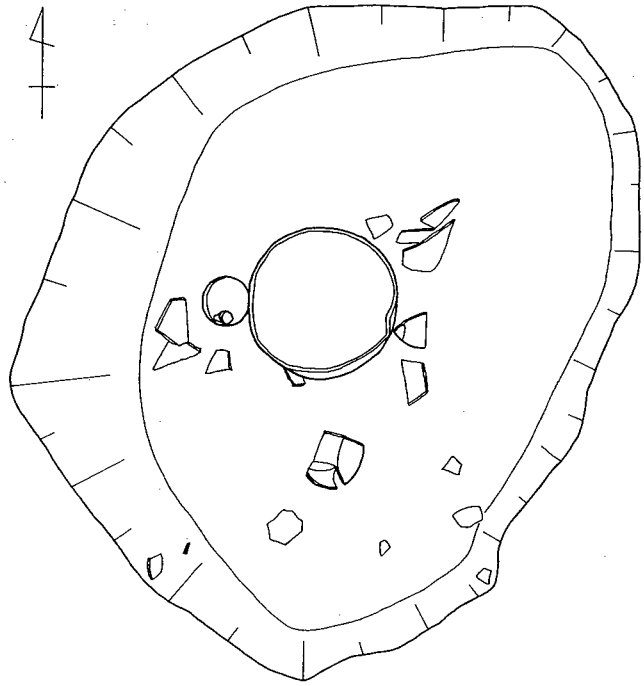


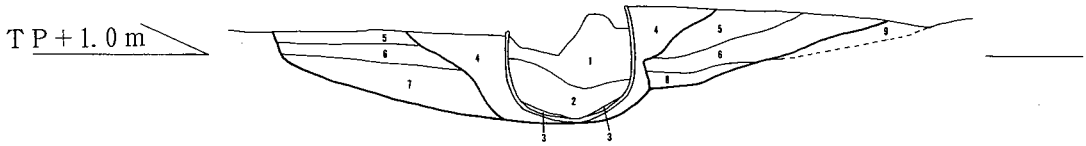
図6　第3次調査平面図



⓪　埋土
①　灰褐色土（床土）
②　茶灰色砂質シルト
③　暗茶灰色砂質シルト
④　淡灰色砂質シルト
⑤　灰褐色微砂
⑥　茶灰色微砂　　溝1
⑦　黒褐色灰混じり微砂
⑧　暗灰褐色砂質土
⑨　灰褐色灰混じり微砂
⑩　淡茶灰色シルト　　灰の詰まった穴
⑪　黒灰色灰
⑫　暗褐色灰混じり土
⑬　灰色砂質シルト
⑭　黄灰色砂質シルト
⑮　暗灰緑色シルト
⑯　灰褐色砂質シルト
⑰　茶灰色砂質土（多量の礫〈2～10㎜〉が混じる）
⑱　暗灰色細砂
⑲　暗褐色粘質シルト
⑳　茶灰色粗砂
㉑　灰褐色中砂
㉒　灰色中砂
㉓　灰色細砂
㉔　暗黄褐色微砂
㉕　暗緑褐色粘土
㉖　緑灰色粘土
㉗　灰褐色粘土
㉘　淡緑灰色微砂
㉙　黒褐色粘土

図7　第3次調査断面図





1．暗灰色粘質シルト
2．暗灰褐色粘土
3．暗緑灰色シルト質粘土
4．暗緑灰色砂質シルト
5．緑灰色シルト混じり微砂
6．緑灰色微砂
7．緑灰色シルト混じり微砂
8．暗緑灰色シルト
9．暗灰褐色粘土

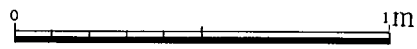


図8　墓－1　平面図・断面図

墓－1　南北約1.8m、東西約1.6m、深さ約0.6mの円形の掘方に砂を入れ、中央に径0.8m、深さ0.3mの据方を掘り、須恵器の甕を棺として据えた甕棺墓である。棺の大きさから小児の墓と考えられる。甕の棺は復原高が0.43mあるので、墓には封土があったと思われる。棺のまわりには須恵器の鉢・坏・甕・土師器の壺・坏・高坏の破片が散乱していた。副葬品、棺の蓋と考えられる。また埋土から胡桃、瓢箪、桃の核が出土した。掘方の底には多数の足跡が残っていた。

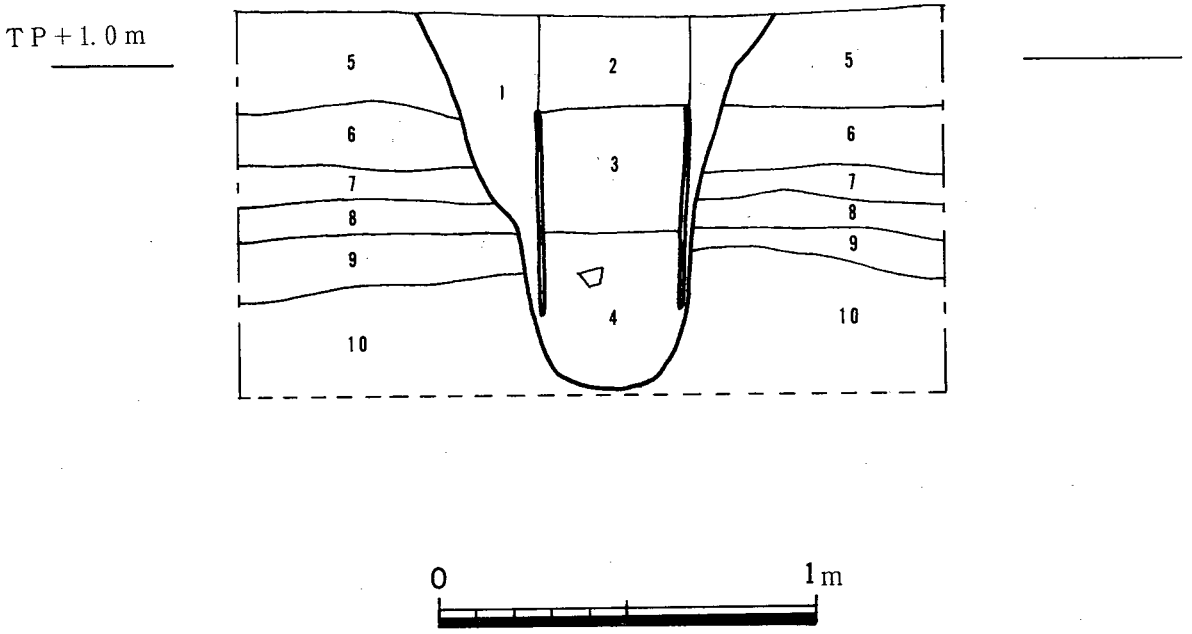
井戸－1　径0.4mの曲物を積み、井筒とした井戸である。検出面での掘方は径0.95m、深さ1.0mを測る。砂層に達しており、この層が湧水層と考えられる。出土遺物は底から須恵器高台付坏が出土している。

灰の詰まった穴　径約4m、深さ1.2mの擂鉢状の大きな穴である。埋土は灰で、大量の土器とともに、桃の核、焼土、若干の木製品が含まれていた。埋土は5層に分層できたが、出土層に関係なく同一個体の土器が含まれていたため、ごく短期間に埋められたものと考えられる。また椀・皿類は完形のものが多く、二次的に火にかかっているものも見受けられた。また釜類以外あまり使用されていないようである。

遺構の特異な状況から、火を使う祭祀が行われた後、土器などを灰とともに穴に埋めたのではないかと考えられる。

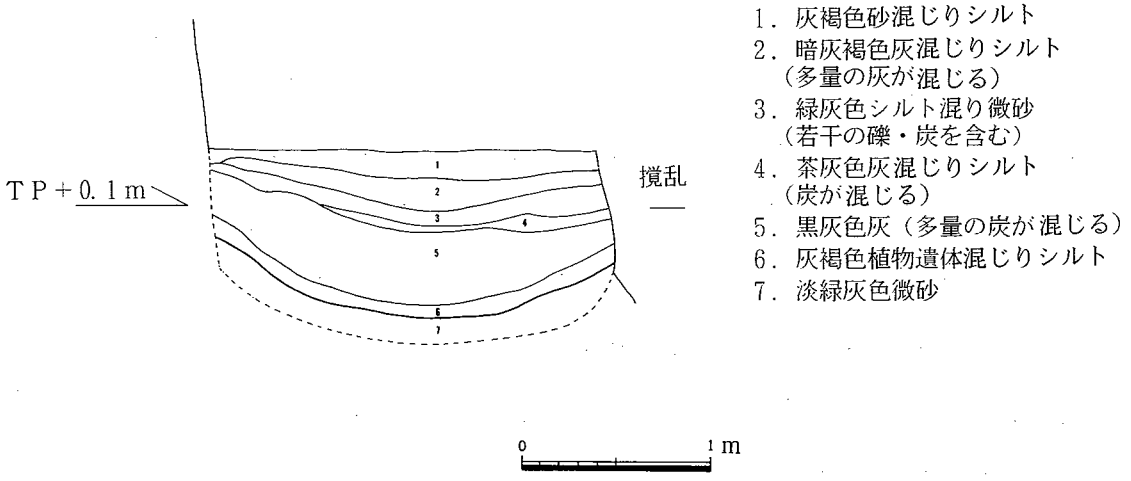
溝－1　南北方向の溝で、検出幅2～2.5m、深さ0.2mを測るが、南端で0.4m近く残存が認められ、相当な削平を受けていると思われる。弥生土器壺、須恵器高坏、土師器皿、瓦器椀・皿等が出土した。埋土は黒灰色灰混り微砂である。

遺物　遺物はコンテナに60箱分出土した。弥生時代中期から近世まで、



1．暗緑灰色粘土（ブロック混じり）　2．暗緑灰色粘質シルト　3．茶褐色細砂　4．淡緑灰色微砂（砂粒乱れる）
5．暗灰褐色粘土　6．緑灰色粘土（多量の炭混じり）　7．灰褐色粘土（若干の炭混じり）
8．緑灰色粘質シルト（若干の植物遺体混じり）　9．淡緑灰色シルト混じり微砂　10．淡緑灰色微砂（金雲母・植物遺体混じり）

図9　井戸－1　断面図



1．灰褐色砂混じりシルト
2．暗灰褐色灰混じりシルト（多量の灰が混じる）
3．緑灰色シルト混り微砂（若干の礫・炭を含む）
4．茶灰色灰混じりシルト（炭が混じる）
5．黒灰色灰（多量の炭が混じる）
6．灰褐色植物遺体混じりシルト
7．淡緑灰色微砂

図11　灰の詰まった穴　断面図

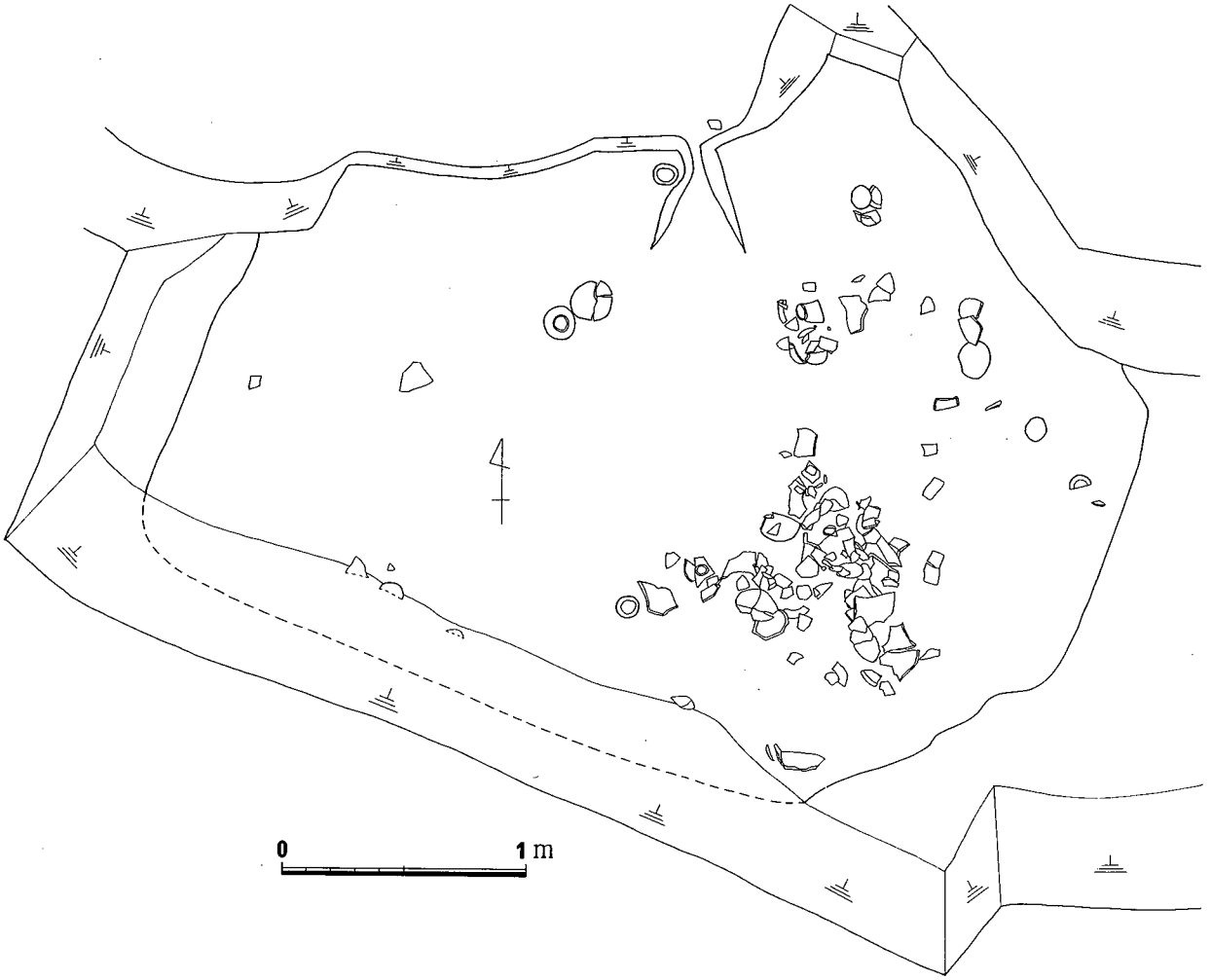


図10　灰の詰まった穴平面図・遺物出土状況図

ほぼ各時代のものが出土している。弥生土器は溝－1から出土したもので、生駒西麓産の無頸壺とみられる。墓－1出土の鉢は鉄鉢を模したもので、陶邑産の優品である。

灰の詰まった穴からは、土師器小皿・大皿、瓦器椀・皿、土師器甕、土師器羽釜が出土した。土師器小皿では「て」字状口縁をなすものから、直線的な口縁をなすものまでみられるが、口径はほぼ9～10cmの範囲におさまり、胎土はしっとりとした感じをもっている。土師器大皿は小皿

ほど形態に変化はなく、口径は15cm前後である。口縁部のヨコナデが二段のものも認められる。大皿・小皿とも朱彩を施したものがあるが、火にかかっているものがかなりあり、実態はよくわからない。

瓦器は椀と皿が出土したが、皿は高台付と高台なしが各一点である。椀はいずれもしっかりした高台を有するもので、口縁部内面に沈線を有するものとないものがある。内外面にヘラミガキ（暗文）を施しており、特に内面は表現できないほど密に施しているものもある。形態・手法に差がみられ、複数から供給されたと考えられる。

溝－１出土の瓦器椀は高台に変化がみられ、ヘラミガキもやや雑になっている。

小　結

今回の調査は、奈良時代の甕棺墓をはじめ、奈良から平安時代初頭頃の井戸、平安時代後期の直径４ｍの灰の詰まった穴と中世の溝を発掘するという多大な成果があった。

墓と井戸は奈良時代から平安時代にかけ、周辺に有力者を含む集落があることを示し、灰の詰まった穴は、平安時代後期に行われた盛大な火を使う祭祀の様子を彷彿させるものである。

今後はこれらの遺構を残した集落の発見に努め、遺跡の全容を明らかにしていかなければならない。

表1　墓－1　出土土器観察表

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
1	土師器	坏	14.6	3.5	◦口縁部は直線的に立ち上がる。	◦口縁体部はヨコナデ。	◦10YR7／2 にぶい黄橙。	密	◦黒斑がある。
2	須恵器	甕	22.2	42.5	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は面をもつ。 ◦体部はなで肩で底部は尖りぎみの丸底。	◦口頸部はヨコナデ。 ◦体部・底部はタタキ。 ◦横方向にカキメを施す。	◦10BG5／1 青灰。	密	◦棺に使用。
3		坏	底径 9.8		◦高さ0.9cmの内弯する高台がつく。		◦N6／ 灰。	密	
4		鉢	19.4	10.7	◦体部は内弯する。 ◦底部は鋭く尖る。	◦体部外面は回転ヘラ削り。 ◦底部に手持ちヘラ削り。 ◦内面はヨコナデとナデ。	◦N7／ 灰。	密	◦ていねいに仕上げている。

表2　灰の詰まった穴　出土土器観察表

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
5 (①A)	土師器	小皿	9.6	1.9	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
6 (①A)		小皿	9.8	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
7 (④C)		小皿	9.4	1.8	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は少し外へつまみ出す。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR6/1褐灰。	密	◦赤橙色の彩色を施す。 ◦スス付着。
8 (①A)		小皿	9.2	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
9 (①A)		小皿	9.8	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
10 (③B)		小皿	9.2	2.0	◦口縁部の外反は弱い。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	
11 (②B)		小皿	9.8	1.9	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕の後ナデ。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
12 (②B)		小皿	9.8	2.0	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	
13 (④C)		小皿	9.0	1.8	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
14 (①A)		小皿	9.5	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部側面に面をつくる。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦端部側面にも強くヨコナデを施す。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
15 (①A)		小皿	9.6	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
16 (①A)		小皿	9.8	2.0	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦内面10YR8/3 浅黄橙。 ◦外面 10YR8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
17 (②C)		小皿	9.7	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁・体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
18 (④C)	土師器	小皿	9.7	2.0	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	
19 (①A)		小皿	9.7	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部側面に面をつくる。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦端部側面に強くナデを施す。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y8/1灰白。	密	◦スス付着。
20 (③B)		小皿	9.0	1.7	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
21 (②B)		小皿	9.0	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	
22 (①A)		小皿	9.8	1.9	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
23 (④C)		小皿	9.5	2.0	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は少し外へつまみ出す。	◦口縁・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
24 (②B)		小皿	9.8	1.9	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は少し外へつまみ出す。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
25 (③C)		小皿	9.9	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は少し外へつまみ出す。	◦口縁・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
26 (①A)		小皿	10.0	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR7/1灰白。	密	
27 (②B)		小皿	9.5	1.6	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
28 (③B)		小皿	9.8	1.3	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
29 (①A)		小皿	10.1	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦5Y8/2灰白。	密	
30 (②B)		小皿	9.9	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 7/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
31 (③B)		小皿	9.4	1.7	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
32 (③B)		小皿	9.7	1.7	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
33 (③B)		小皿	9.5	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
34 (①A		小皿	9.8	1.3	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
35 (③B)		小皿	10.0	1.4	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は少し外へつまみ出す。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
36 (③B)	土師器	小皿	10.2	1.4	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	
37 (①A)		小皿	10.0	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
38 (①A)		小皿	9.2	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦体部内面はヨコナデ。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。 ◦籾痕が2つある。
39 (②B)		小皿	9.5	1.6	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部側面に面をつける。	◦口縁端部側面にナデ面。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
40 (③B)		小皿	10.1	1.9	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
41 (①A)		小皿	9.9	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。 ◦口縁端部側面に面をつける。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦口縁端部側面にナデ面。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。 ◦全体にススが付着
42 (①A)		小皿	9.6	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
43 (①A)		小皿	9.5	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	
44 (①A)		小皿	9.5	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	◦紅色を施す。
45 (②B)		小皿	9.8	1.9	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
46 (③C)		小皿	9.8	2.0	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	◦底部に籾痕あり。
47 (①A)		小皿	9.9	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
48 (②B)		小皿	9.4	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
49 (②B)		小皿	9.6	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
50 (①A)		小皿	9.2	1.4	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦5YR8/3浅橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
51 (③C)		小皿	10.2	2.1	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦底部に籾痕あり。
52 (②B)		小皿	9.6	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
53 (①A)		小皿	9.2	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
54 (③C)	土師器	小皿	9.6	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部側面にナデ面をつくる。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
55 (②B)		小皿	9.2	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	
56 (①A)		小皿	9.6	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR4/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
57 (②B)		小皿	9.4	1.2	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
58 (③C)		小皿	9.7	1.7	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は折り返し肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	
59 (④C)		小皿	9.1	1.1	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は外に折り返し気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
60 (②B)		小皿	10.0	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返している。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦炭化物、漆が付着。
61 (①A)		小皿	10.0	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
62 (③C)		小皿	9.8	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	
63 (①A)		小皿	9.8	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
64 (②B)		小皿	9.9	1.6	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	
65 (③C)		小皿	9.3	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁部は丸くおさめる。	◦口縁・体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	
66 (②B)		小皿	9.7	1.5	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	
67 (①A)		小皿	9.8	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	
68 (③C)		小皿	9.3	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
69 (①A)		小皿	9.8	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
70 (③C)		小皿	9.2	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は内側に肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦5YR8/2浅灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
71 (①A)		小皿	9.4	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦5YR8/3淡橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
72 (④C)		小皿	9.7	1.5	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁部は丸くおさめる。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
73 (②B)	土師器	小皿	9.2	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
74 (①A)		小皿	9.5	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部の内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
75 (③C)		小皿	9.5	1.9	◦口縁部はやや外反する。 ◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	同一工人か
76 (③C)		小皿	9.1	—	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	
77 (①A)		小皿	9.9	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	
78 (③C)		小皿	9.8	1.8	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
79 (①A)		小皿	10.8	11.0	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
80 (④C)		小皿	10.6	0.9	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部はやや外反し丸くおさめる。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5YR7/6橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
81 (②B)		小皿	9.7	1.6	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
82 (①A)		小皿	10.0	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
83 (②B)		小皿	9.8	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返す。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
84 (②B)		小皿	10.0	1.4	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は少し内側に折り返す。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	
85 D		大皿	15.2	3.3	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は反り気味に丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦7.5YR7/1 明褐灰。	密	◦内面2/3に炭化物。 ◦破片により色が異なる。
86 D		大皿	14.7	3.5	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦5YR7/1明褐灰。	密	◦内外面にスス付着。 ◦紅色を施す。
87		大皿	14.6	3.1	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	
88 D		大皿	15.2	3.4	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/1灰白。	密	◦紅色を施す。 ◦破片により色が異なる。
89 E		大皿	15.5	3.5	◦体部はやや直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は反り気味に丸くおさめる。	◦口縁部は二段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦内面に炭化物。
90 E		大皿	15.2	3.5	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は二段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm） 口径	器高	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
91 D	土師器	大皿	15.3	3.1	◦口縁部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦ススけている。
92 D		大皿	15.4	3.1	◦口縁部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁・体部はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦内面に炭化物が付着。 ◦紅色を施す。
93 D		大皿	15.4	3.7	◦口縁部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
94 D		大皿	14.4	2.8	◦凹む底部から体部は内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は反り気味に丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦内外面に炭化物付着。
95 D		大皿	14.4	2.7	◦口縁部のナデの部分は弱く内弯している。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	
96 D		大皿	15.1	3.4	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
97 E		大皿	15.2	3.5	◦口縁部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は外側に折り返し外反している。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は二段のヨコナデ。	◦7.5YR8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
98 D		大皿	15.7	3.6	◦口縁部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦口縁端部側面にナデ面。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦内面 10YR 2/1黒。 ◦外面 10YR 8/1灰白。	密	◦内面に炭化物が付着。
99 D		大皿	14.7	3.4	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦内面にスス付着。
100 D		大皿	14.3	3.5	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦内面に炭化物が付着。
101	瓦器	埦	15.6 底径 6.8	6.7	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は内弯ぎみ。 ◦器高が高く、高い高台がつく。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文は不定方向に密に磨く。	◦10Y2/1黒。	密	◦器高指数43。
102		埦	15.8 底径 6.5	6.6	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は外反する。 ◦器高が高く、高い高台がつく。	◦内外面ともていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は密なため、部分的にしか表現できない。	◦5Y 3/1 オリーブ黒。	密	◦器高指数42。
103		埦	16.5 底径 7.5	6.0	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は外反する。 ◦しっかりした高台がつく。	◦内外面ともていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は密なため、部分的にしか表現できない。	◦N2/ 黒。	密	◦器高指数36。
104		埦	15.1 底径 5.0	5.9	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面は沈線（？）。 ◦高台はしっかりしたものがつく。	◦内外面とも粗いヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザクの平行線文。	◦N4/ 灰。	密	◦重ね焼きの跡。 ◦器高指数39。
105		埦	15.1 底径 5.6	6.0	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は内弯ぎみ。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦しっかりした高台がつく。	◦内外面ともていねいなヘラ磨き。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文は斜格子文。	◦2.5Y 8/3淡黄。	密	◦器高指数40。 ◦二次的に火にかかり炭素がぬけている。
106		埦	15 底径 5.6	6.3	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦器高が高く、高い高台がつく。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は斜格子文。 ◦口縁部はヨコナデ。	◦N5/ 灰。	密	◦器高指数42程度。
107		埦	15.9 底径 5.4	6.4	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦しっかりした高台がつく。	◦外面のヘラ磨きは6回に分けて仕上げる。 ◦内面のヘラ磨きも密であるが、灰化物がついているため表現できない。	◦2.5Y 2/1黒。	密	◦器高指数42。 ◦外面に砂、内面に炭化物がつく。

番号	器種	器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
108	瓦器	塊	15.9 底径 6.4	6.2	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は外反する。 ◦高くしっかりした高台がつく。	◦内外面ともていねいなヘラ磨き。 ◦内面のヘラ磨きは下から上へ、放射状に仕上げる。	◦N1.5黒。	密	◦器高指数39。
109		塊	15.6 底径 7.0	5.9	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦高台はしっかりしたものがつく。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は斜格子文。	◦2.5GY 3/1 暗オリーブ灰。	密	◦器高指数38。
110		塊	15.5 底径 6.9	6.3	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は外反する。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内外面ともていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は平行線文。	◦N2/　黒。	密	◦器高指数41。
111		塊	15 底径 6.3	6.4	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザクの平行線文。	◦7.5Y2/2 オリーブ黒。	密	◦器高指数43程度。
112		塊	16.2 底径 6.4	6.0	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦高台は7m/m程度の台形のものがつく。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦口縁部は強くヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザクの平行線文。	◦N2/　黒。	密	◦器高指数37。
113		塊	15.4 底径 5.3	6.9	◦器高が高く、高い高台。 ◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は斜格子文。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。	◦5Y 7/1灰白。	密	◦器高指数45程度。
114		塊	15.0 底径 6.1	6.7	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦断面三角形に近いしっかりした高台がつく。	◦外面はヘラ磨きを3回に分けて仕上げる ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文は平行線文。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦器高指数45。 ◦2次的に火にかかっており炭素がぬけている。
115		塊	15.1 底径 6.7	6.2	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は外反気味。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は不定方向に密に磨く。	◦N4/　灰。	密	◦器高指数41。
116		塊	15.2 底径 6.8	5.8	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部は強くヨコナデし内面に段がつく。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内面はていねいなヘラ磨き。 ◦外面はていねいなヘラ磨きであるが、部分的である。 ◦見込の暗文はジグザグの平行線文。	◦N3/　暗灰。	密	◦器高指数38。
117		塊	15.6 底径 7.0	5.9	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザグの平行線文。	◦2.5Y 7/1灰白。	密	◦器高指数38程度。
118		小皿	9.9	2.7	◦体部は直線的に立ち上がる。	◦内外面は粗いヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザクの平行線文。	◦N5/　灰。	密	
119		台付 小皿	9.9 底径 4.7	2.9	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦高い高台がつく。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦見込の暗文は平行線文。	◦N4/　灰。	密	
120		塊	15.2	6.2	◦体部は内弯ぎみにまっすぐ立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。 ◦器高が高く、高い高台。	◦内外面はていねいなヘラ磨き。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文はジグザグの平行線文。	◦7.5YR 7/1 明褐灰。	密	◦内面にススが一部付着。 ◦器高指数41程度。
121	土師器	甕	30.4		◦口縁部はやや内弯して立ち上がる。 ◦胴部はあまり張らず直線的な感じを受ける。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は不定方向のハケで仕上げる。 ◦体部内面はナデ。	◦2.5Y 7/2灰黄。	粗	
122		甕	30.9		◦口縁部は直線的に立ち上がり、端部を内側に折り返す。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面はタテ方向のヘラ削り。 ◦頸部内面はヨコ方向のヘラ削り。 ◦体部内面はタテ方向のヘラ削り。	◦10Y8/1灰白。	粗	◦火にかかり外面はススが付着。
125		甕	31.9	25.7	◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦胴部は少し張る。 ◦底部は丸底。	◦口縁端部はヨコナデ。 ◦体部外面はタテ方向のハケ。	◦2.5Y 7/1灰白。	粗	◦火にかかり外面はススが付着。
126		甕	34.6	25.8	◦体部はやや内弯して立ち上がる。 ◦底部は丸底。	◦口縁端部はヨコナデ。	◦5Y 8/2灰白。	粗	◦破砕後も火にかかっており、各破片の焼け具合がちがう。
127		甕	33.4	22.4	◦口縁部はやや内弯して立ち上がる。 ◦底部は丸底。	◦口縁部内面はヨコナデ、外面はハケ。 ◦体部外面はタテ方向のハケ。 ◦底部外面は不定方向のハケ。 ◦体部内面はヘラ削り。	◦10YR 8/1灰白。	粗	◦火にかかり外面はススが付着。
128		甕	32.6		◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦胴部は張らない。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部はタテ方向の粗いハケ。	◦5YR 7/2 明褐灰。	粗	◦火にかかる。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
129	土師器	甕	35.4		◦口縁部はやや外反して立ち上がる。 ◦胴部はあまり張らず丸底。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面・内面はナデ。 ◦底部外面は不定方向のハケ。 ◦口縁部内面はヨコ方向のハケ。	◦2.5Y 7/1灰白。	粗	◦火にかかり外面はススが付着。
130		羽釜	29.8		◦口縁部は短く直線的。 ◦胴部はやや長い。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部はヘラ削りが部分的に見えるが全体は不明。	◦2.5Y 8/2灰白。	粗	◦火にかかる。
131		羽釜	20.0		◦口縁部は短く直線的。 ◦胴部はやや長い。	◦口縁部・鍔はヨコナデ。 ◦体部外面は指頭圧痕。	◦5YR 8/1 灰白。	粗	◦火にかかる。
132		羽釜	25.6		◦口縁部は短く直線的。 ◦胴部はやや長い。	◦口縁部・鍔はヨコナデ。 ◦体部外面は指頭圧痕。	◦2.5Y 8/2灰白。	粗	◦火にかかる。
134		甕	36.2		◦口縁部はやや内弯して立ち上がる。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は調整しない。 ◦体部内面はナデ。	◦5Y 7/1灰白。	粗	◦火にかかり体部は赤褐色に変色。

表3　溝1　出土土器観察表

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
135（①A）	土師器	小皿	9.0	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5YR 7/4 淡赤橙。	密	
136（②B）		小皿	9.7	1.8	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦2.5YR8/1灰白。	密	
137（①A）		小皿	9.8	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1赤橙。	密	◦鮮やかな赤橙色を施す。 ◦一部下地の白が認められる。
138（②B）		小皿	9.4	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部はやや強いヨコナデ。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦紅色を施す。
139（①A）		小皿	10.4	1.5	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。 ◦底部に籾痕あり。
140（①A）		小皿	10.0	1.6	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
141（②B）		小皿	9.5	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/2灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
142（②B）		小皿	9.2	1.7	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は肥厚気味。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦10YR 8/1灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
143（①A）		小皿	9.2	1.8	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強く外反する。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
144（③C）		小皿	9.6	1.6	◦口縁部はやや外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部・体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
145（①A）		小皿	10.2	1.5	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
146（②B）		小皿	9.1	1.4	◦口縁部は外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部はやや強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部内面はナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/3 浅黄橙。	密	◦赤橙色の彩色を施す。

番号	器種	器形	法量（cm）		形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	備考
			口径	器高					
147 (①A)	土師器	小皿	10.0	1.7	◦口縁部は強く外反する。 ◦口縁端部は内側に折り返し肥厚する。	◦口縁部は強いヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。
148 D		大皿	15.1	3.1	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。 ◦口縁部は一段のヨコナデ。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	
149 E		大皿	14.8	3.5	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は二段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 8/2 灰白。	密	◦赤橙色の彩色を施す。 ◦底部に籾痕あり。
150 D		大皿	13.4	2.8	◦体部はゆるやかに内弯して立ち上がる。 ◦口縁端部は丸くおさめる。	◦口縁部は一段のヨコナデ。 ◦体部内面はヨコナデ。 ◦底部外面は指頭圧痕。	◦7.5YR 7/2 明褐灰。	密	
151	瓦器	小皿	10.3	2.0	◦体部は直線的に立ち上がる。 ◦口縁部は外反する。	◦内外面ともヘラ磨きされるが磨耗のため観察できない。 ◦見込の暗文は平行線文？	◦N3/　暗灰。	密	
152		塊	14.9 底径 5.4	5.4	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁部内面に一条の沈線。 ◦高台は5m/m程度の台形のものがつく。	◦内外面ともやや粗いヘラ磨き。 ◦口縁部はヨコナデの後ヘラ磨き。 ◦見込の暗文は粗いジグザグの平行線文。	◦N3/　暗灰。	密	◦器高指数36。
153		塊	15.8	(5.8)	◦体部は内弯ぎみに立ち上がる。 ◦口縁は外反ぎみ。 ◦口縁内面に一条の沈線。	◦内面はわずかに間隔のあくヘラ磨き。外面は少し間隔のあくヘラ磨き。 ◦見込の暗文は斜格子文。	◦N4/　灰。	密	◦器高指数37程度。

① 口縁部は強く外反する。

② 口縁部は外反する。

③ 口縁部はやや外反する。

④ 口縁部は直線的に立ち上がる。

A 口縁部は強いヨコナデ。

B 口縁部はやや強いヨコナデ。

C 口縁部・体部内面はヨコナデ。

D 口縁部は一段のヨコナデ。

E 口縁部は二段のヨコナデ。

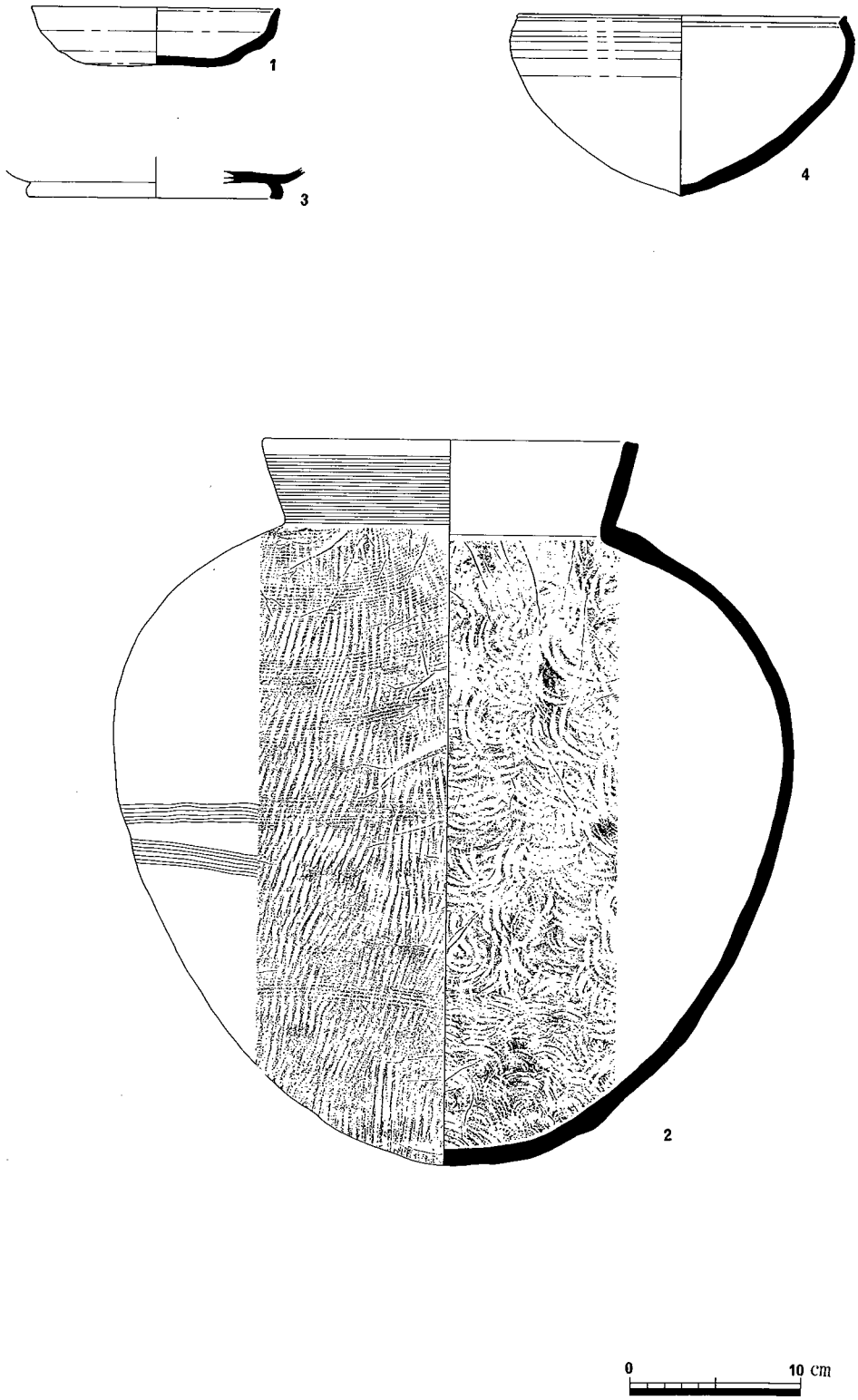


図13　出土遺物実測図（墓－１）

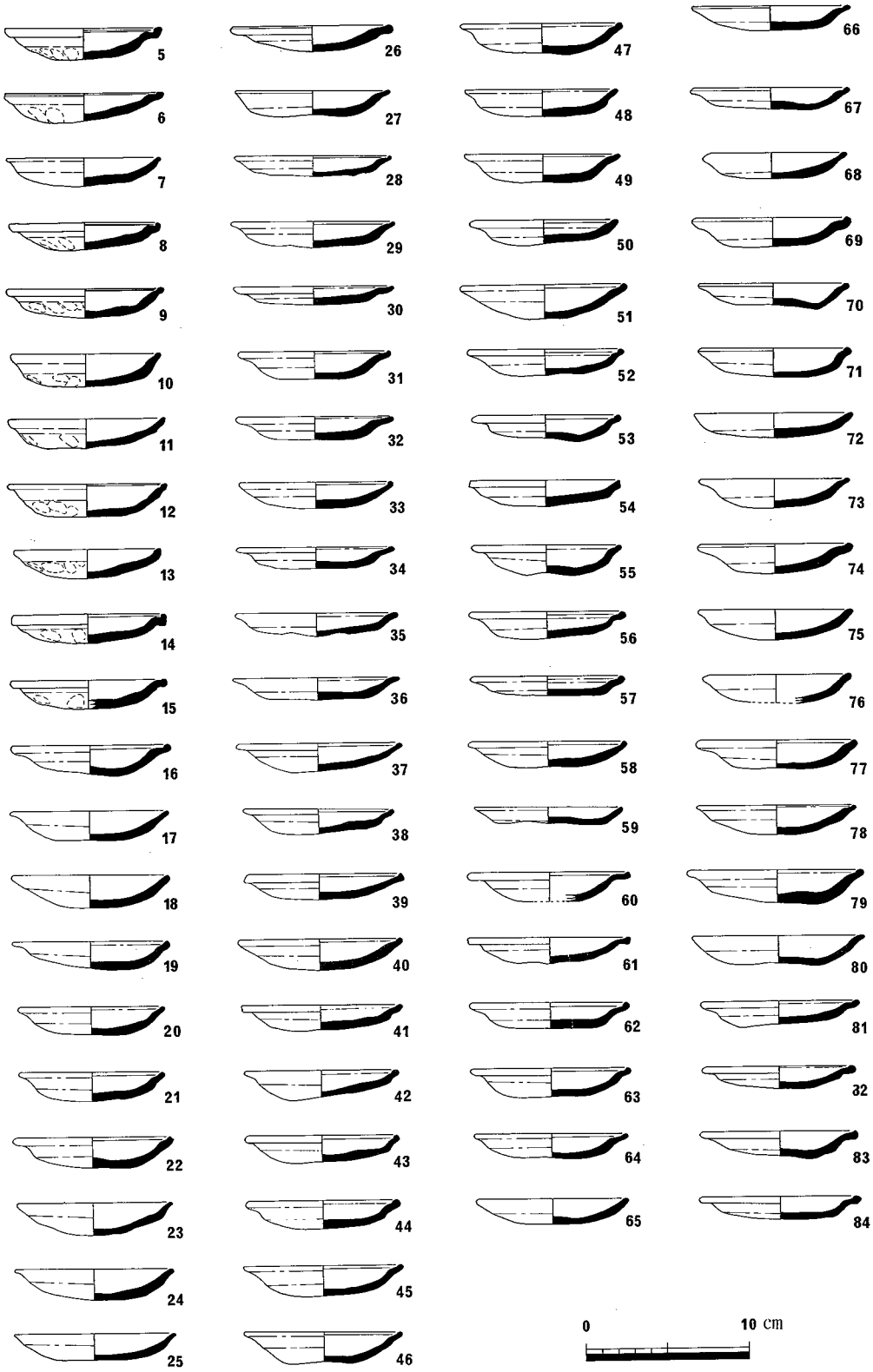


図14　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）

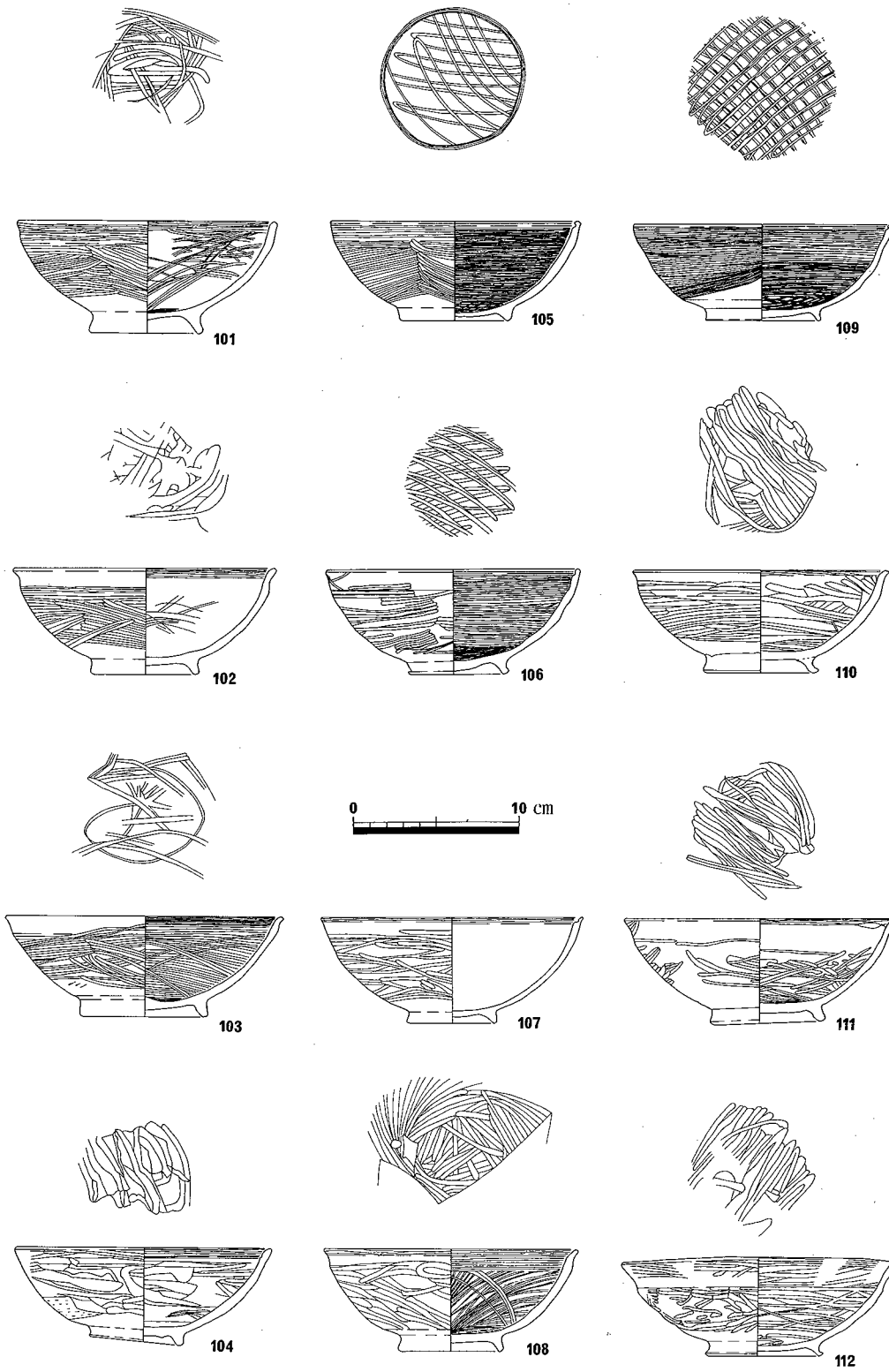


図15　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）

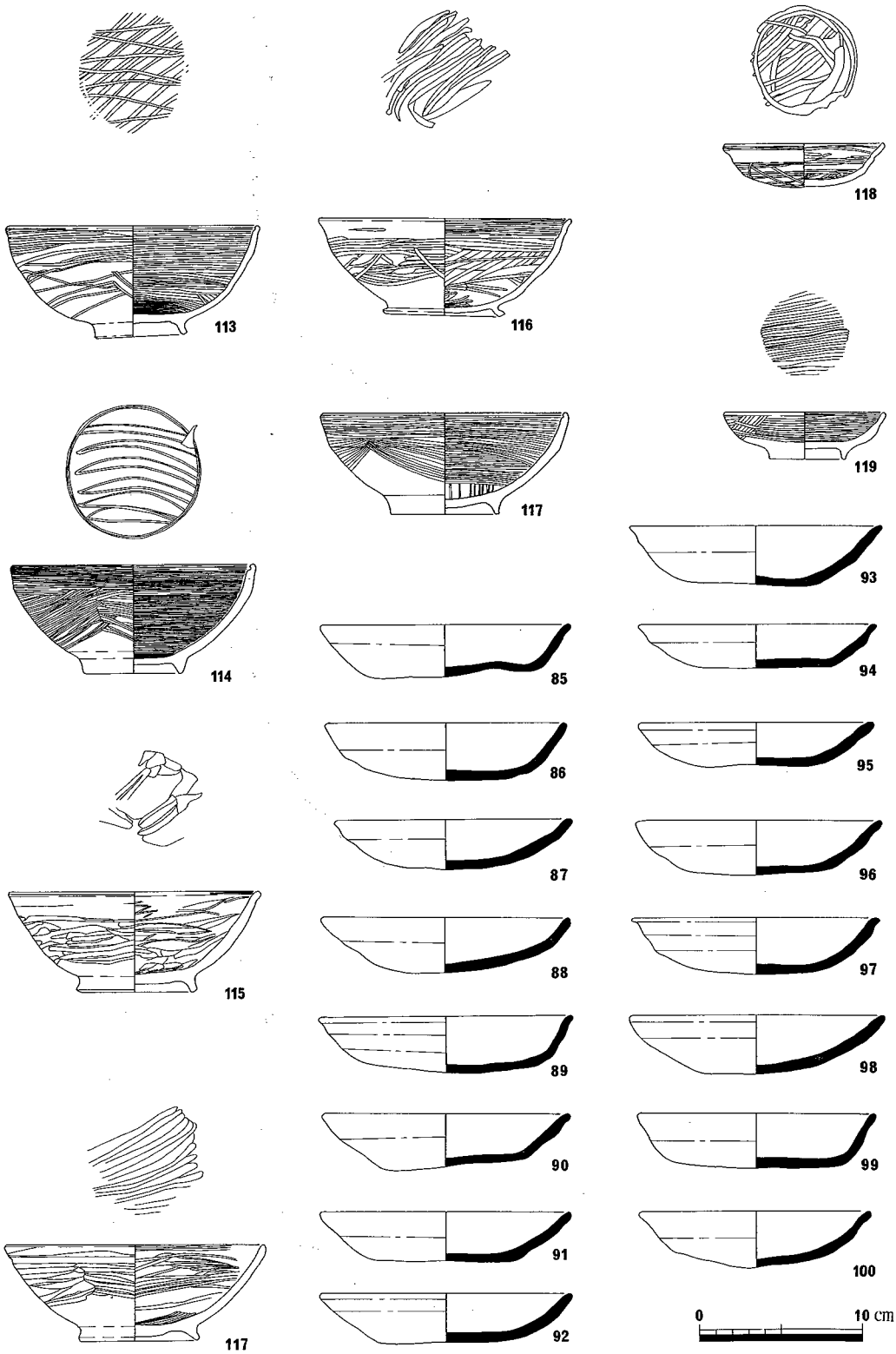


図16　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）

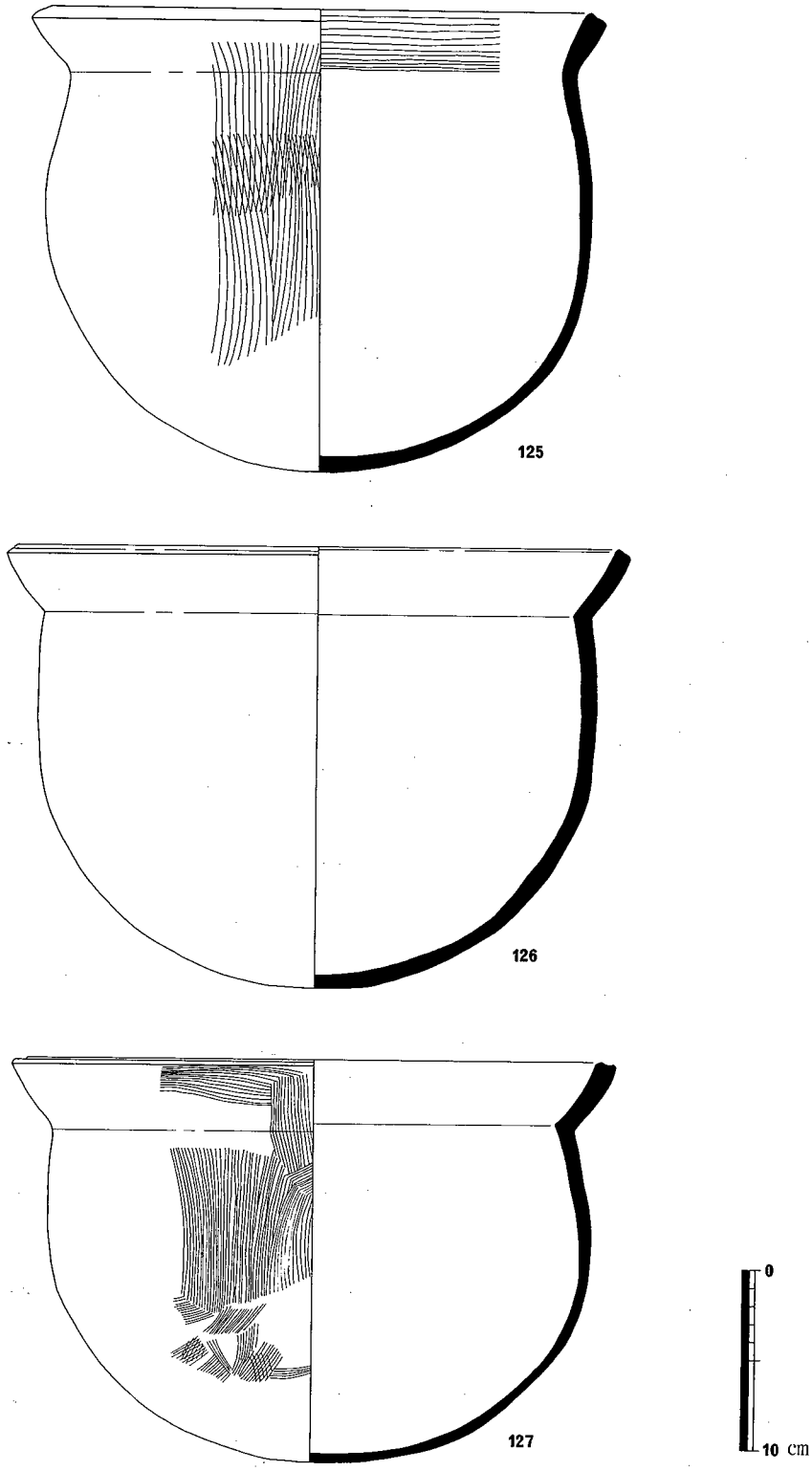
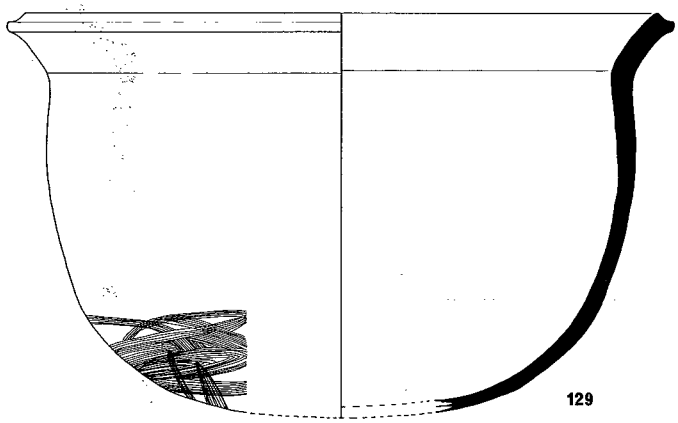
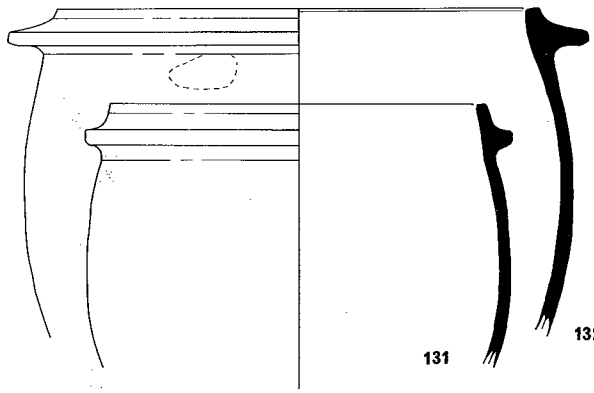
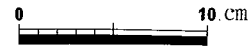


図17　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）







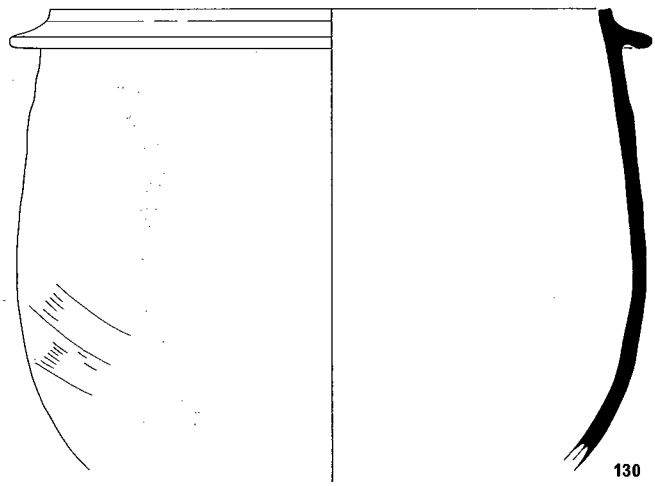


図19　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）

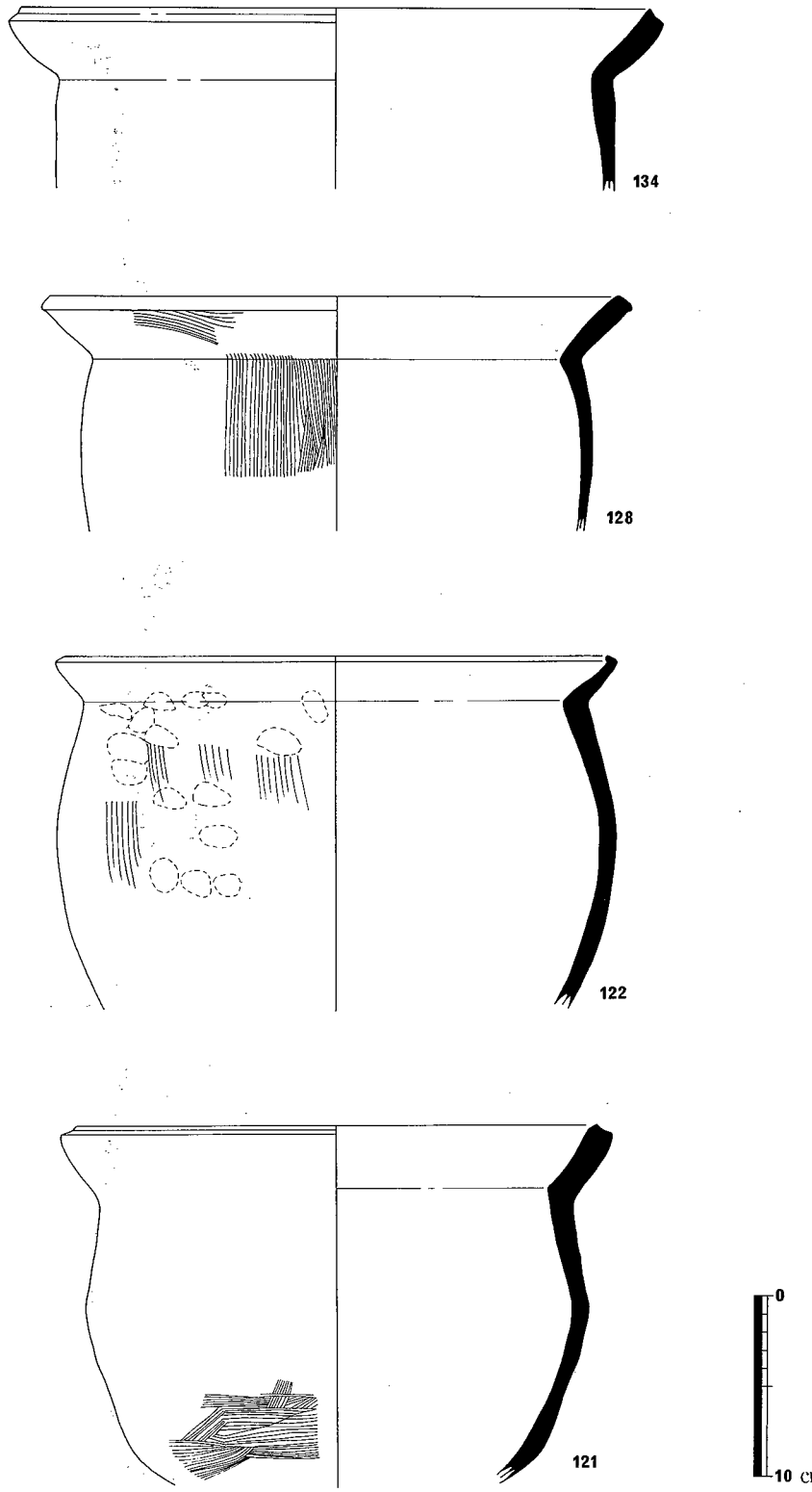


図18　出土遺物実測図（灰の詰まった穴）

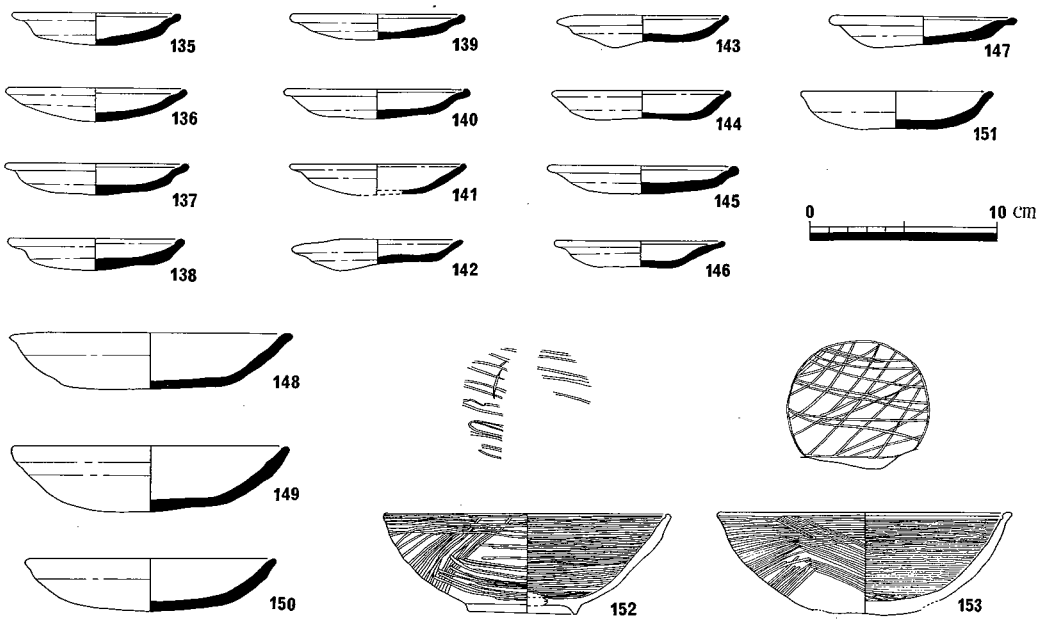
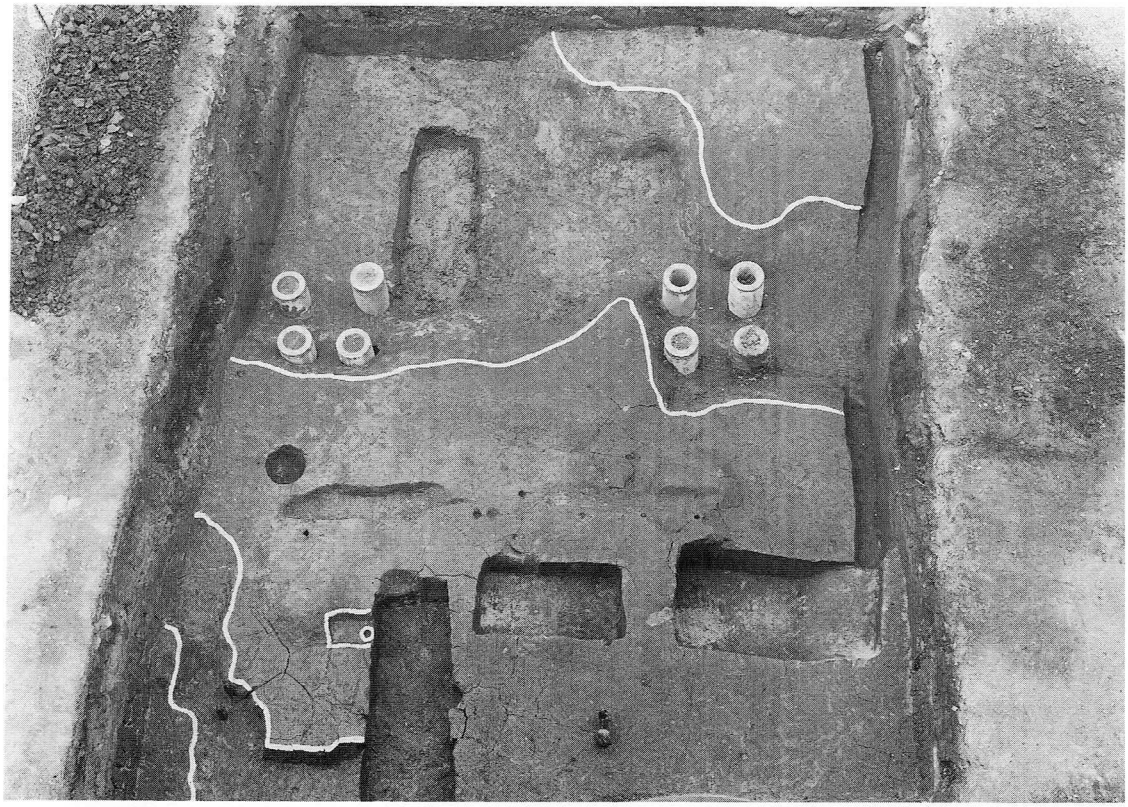


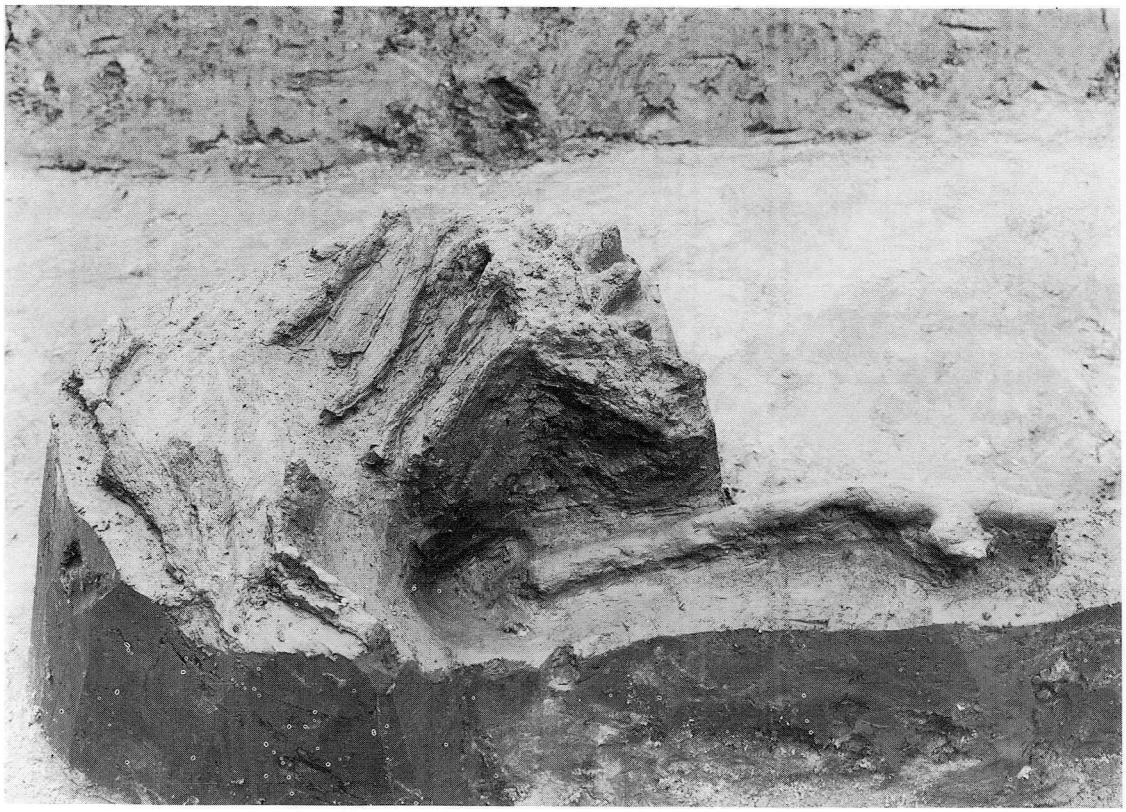
図20　出土遺物実測図（溝－１）

図　　版

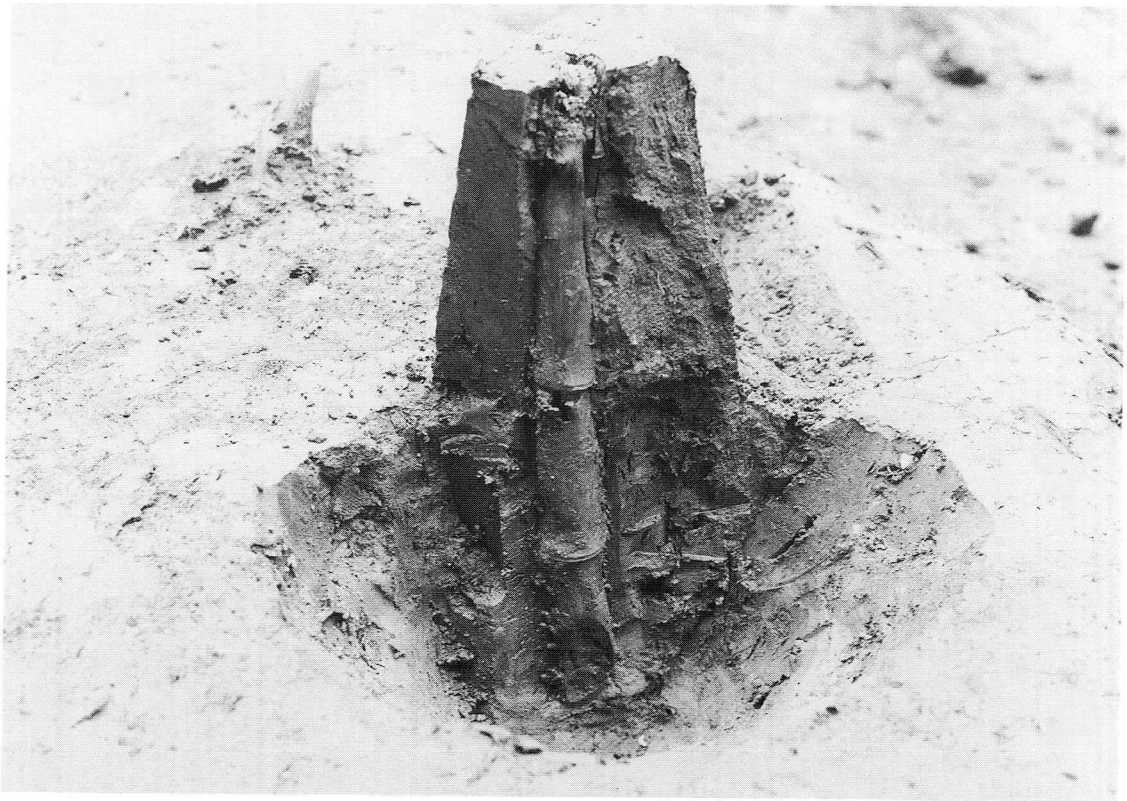
図版1



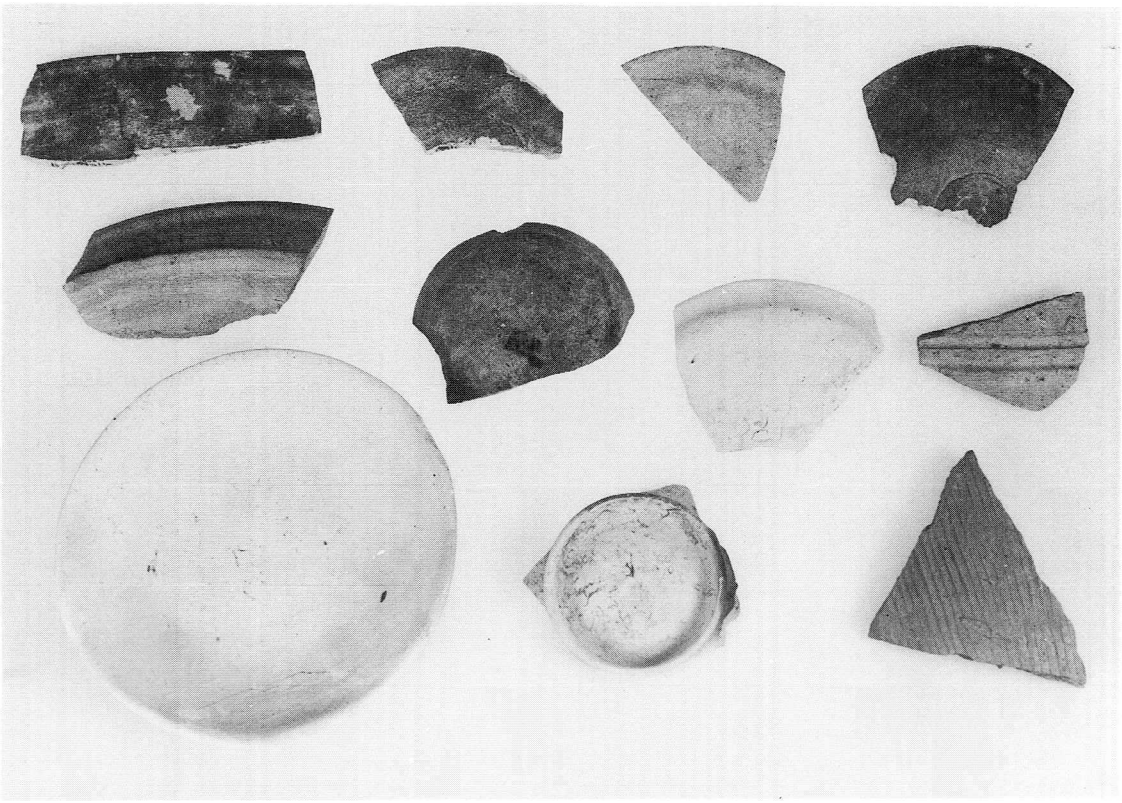
第1次調査　全景



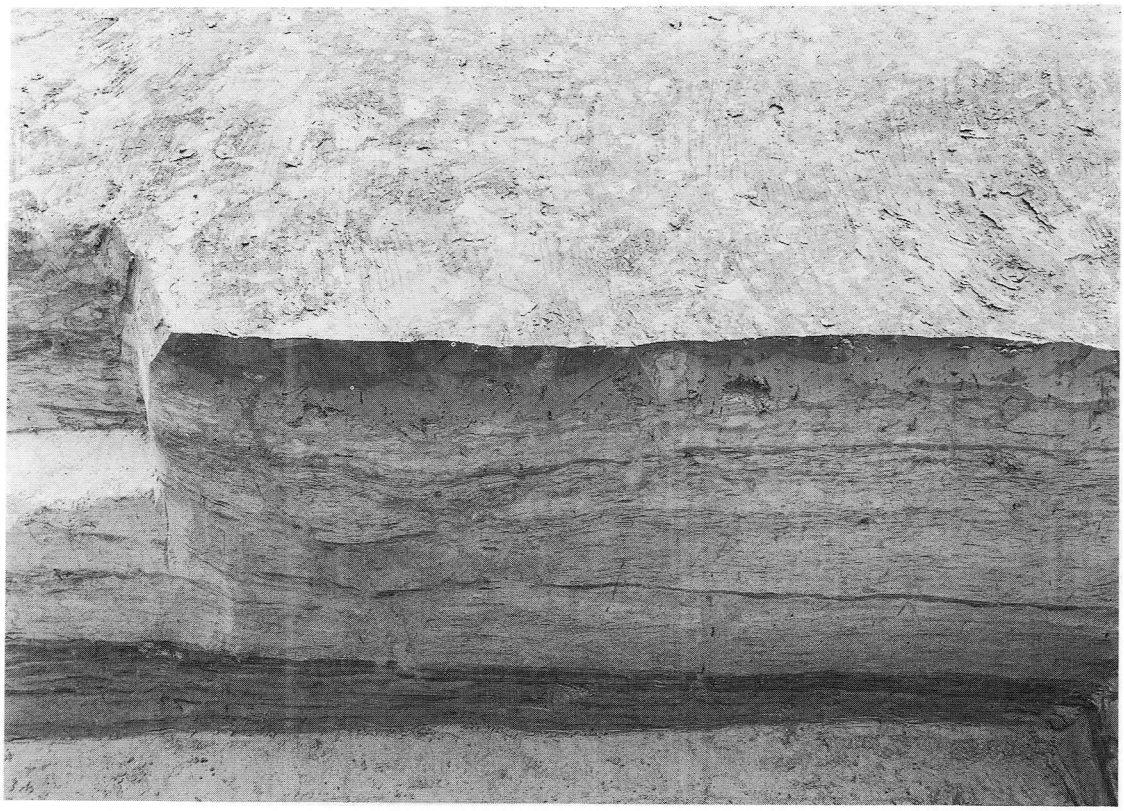
第1次調査　馬の骨出土状態



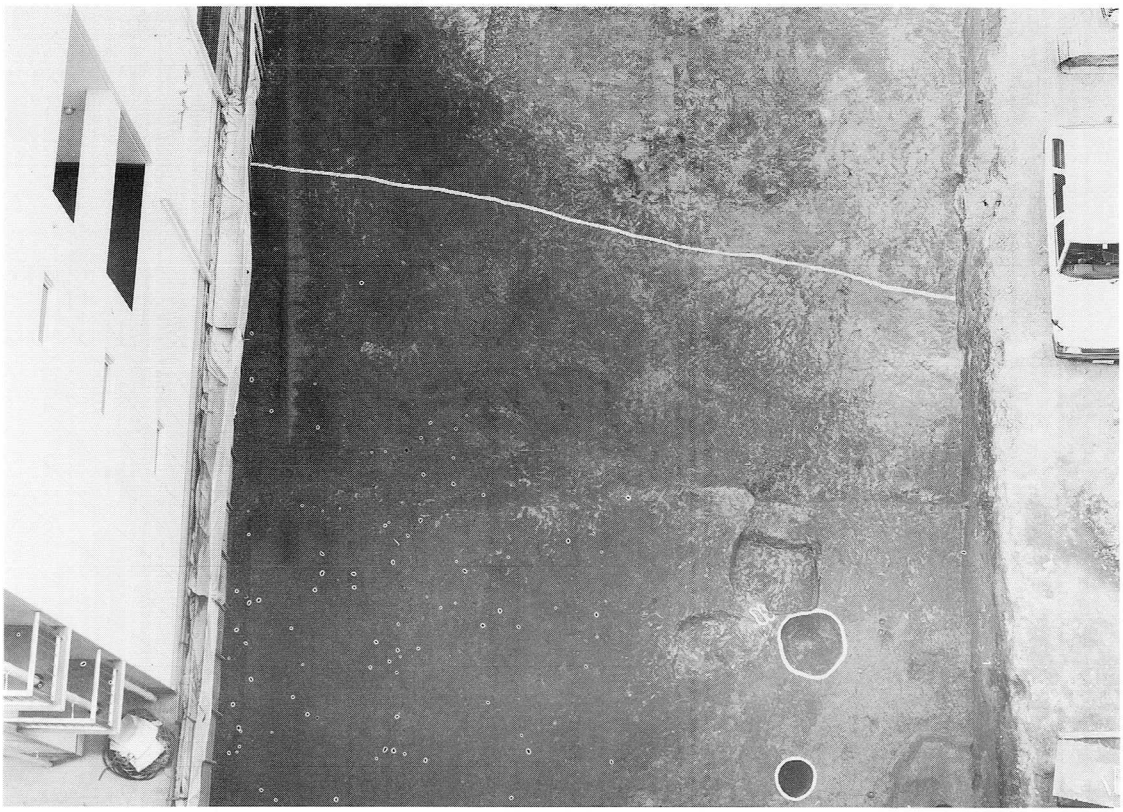
第1次調査　地面に立てられた竹



第1次調査　出土遺物



第1次調査　噴砂跡



第4次調査　全景

図版4　全景

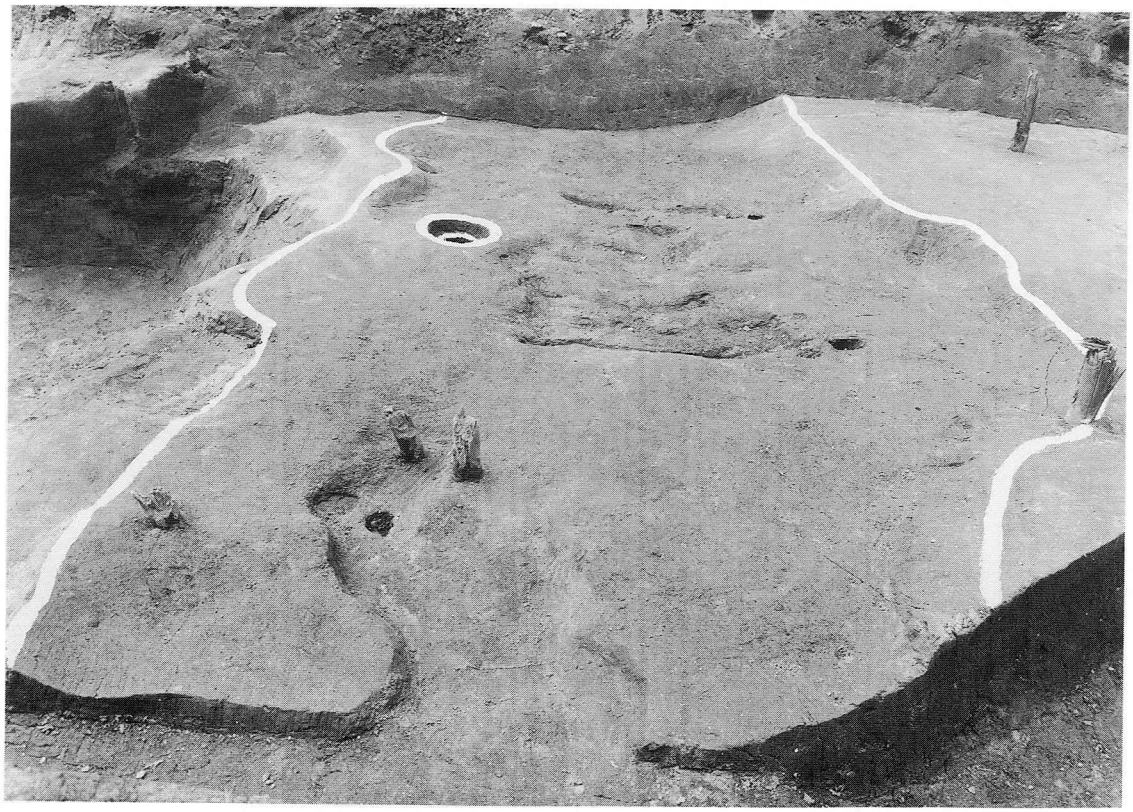
第4次調査　全景　西側

第3次調査　全景　東側

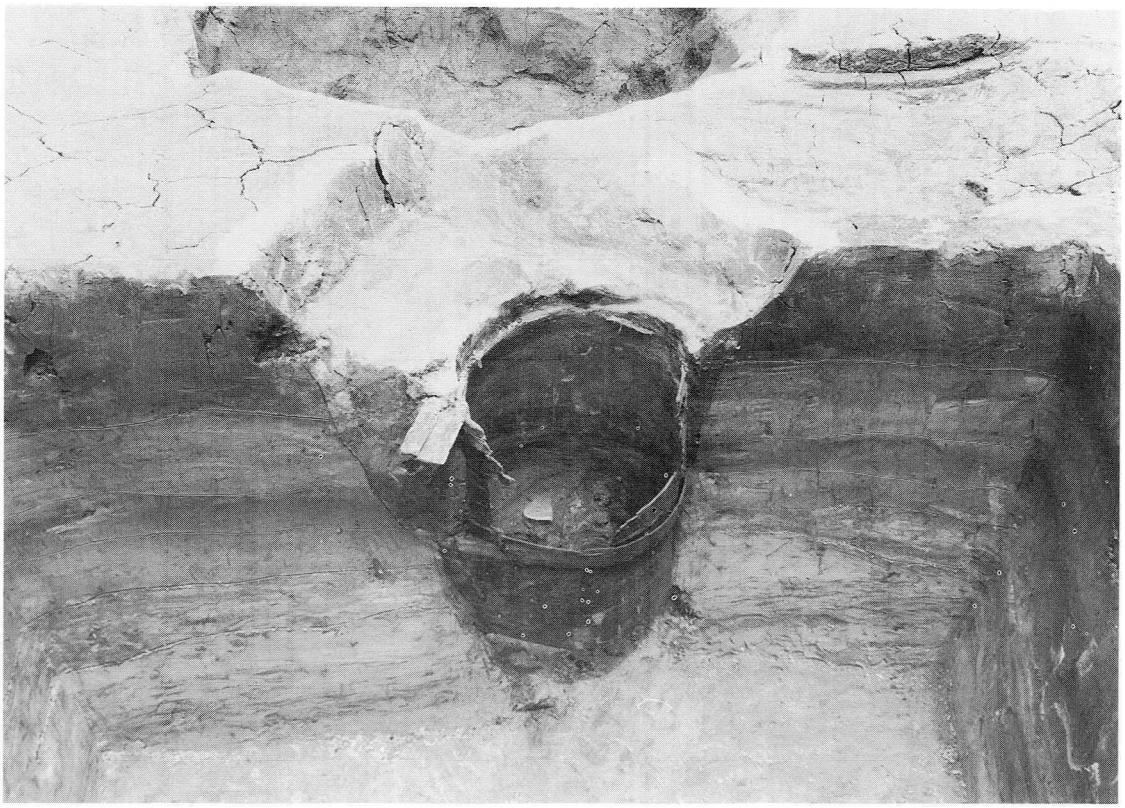
墓1　土器出土状態

墓1　掘方内の足跡

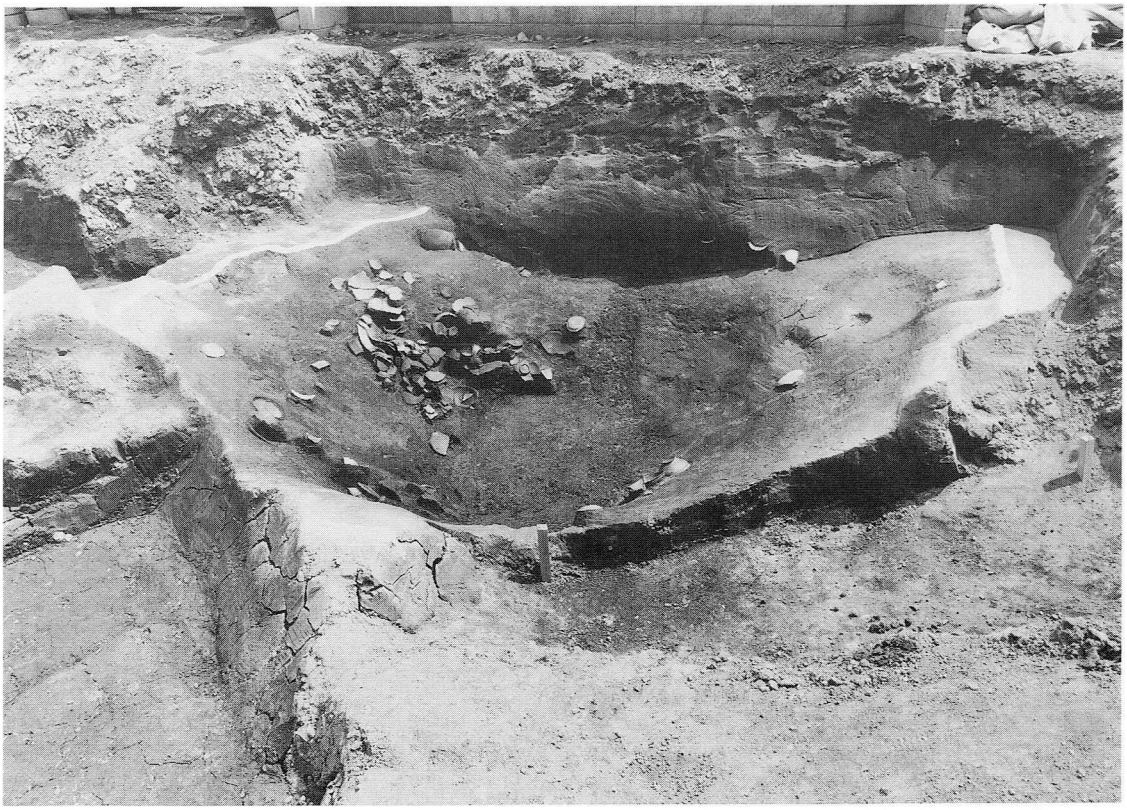
図版6　遺構



溝1　北から



井戸1　断面

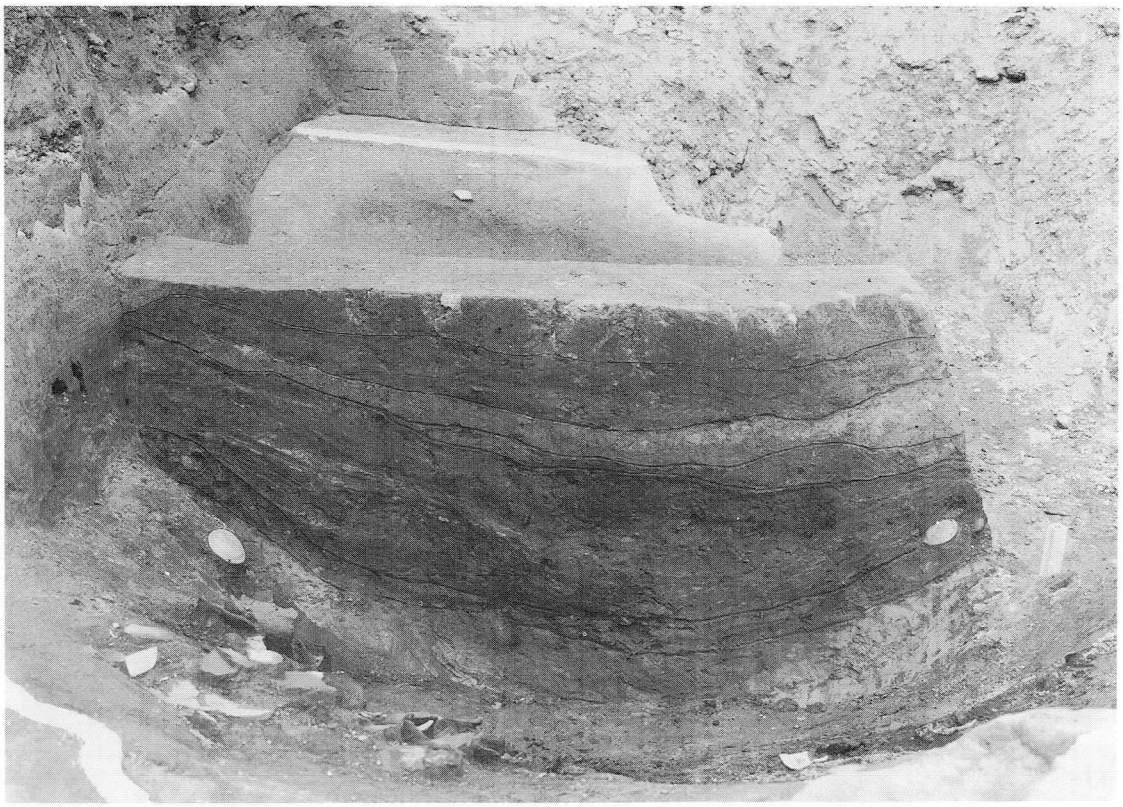


灰の詰った穴　南から

灰の詰った穴　上から

図版8　遺物出土状態・遺構断面

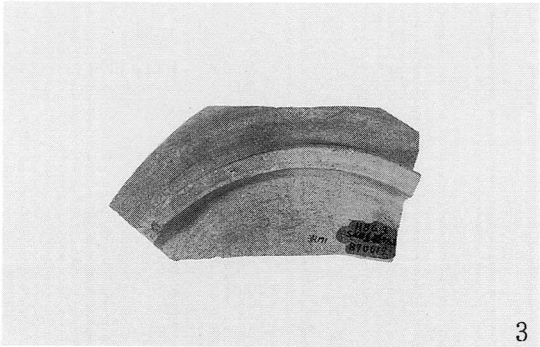
灰の詰った穴　瓦器椀出土状態

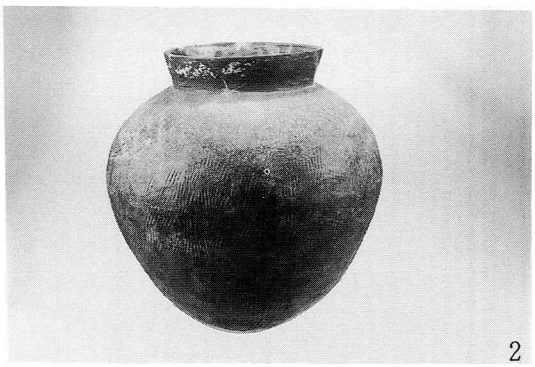


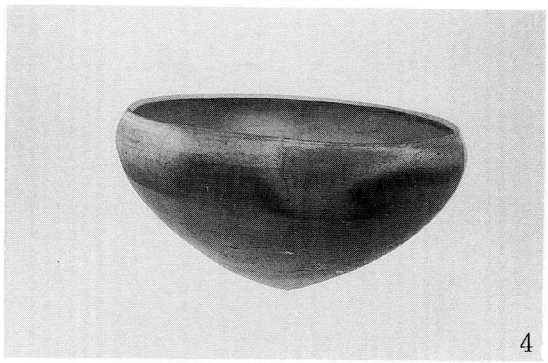
灰の詰った穴　断面

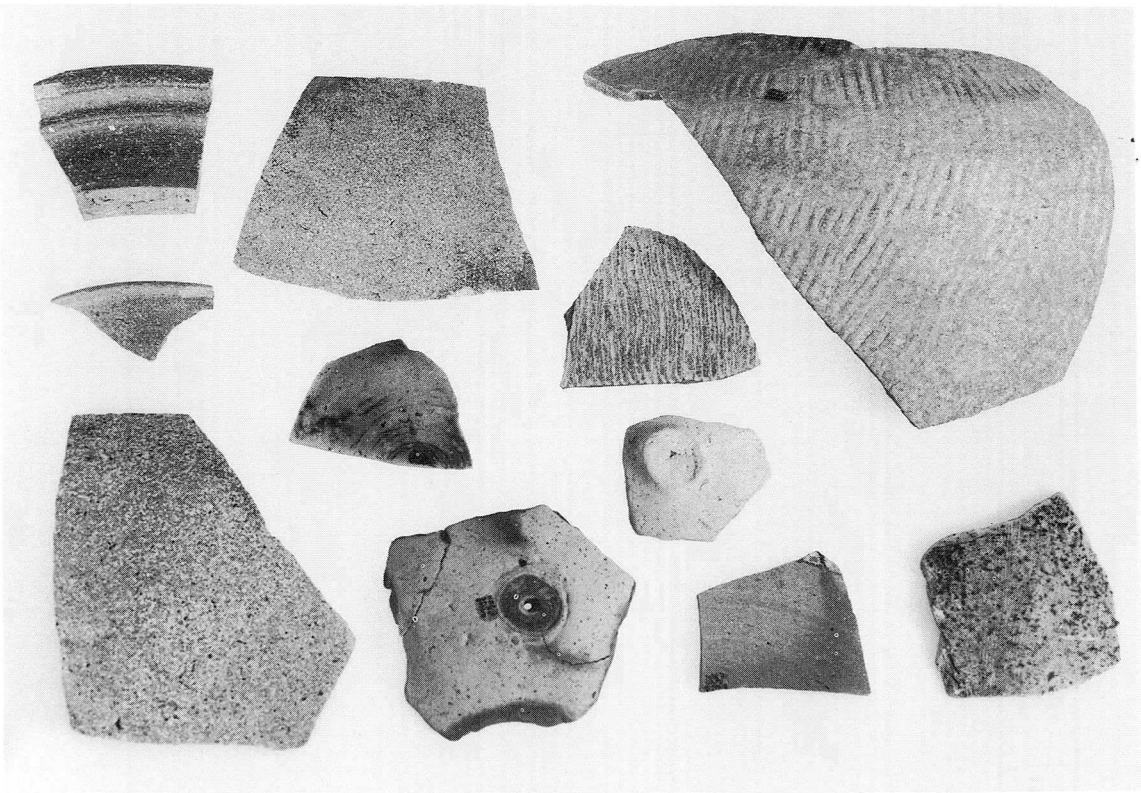
図版9　墓1出土遺物

1


3

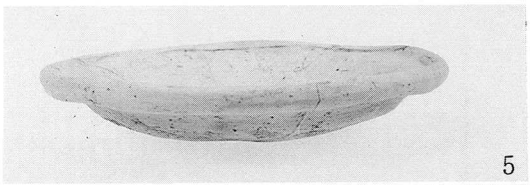

2

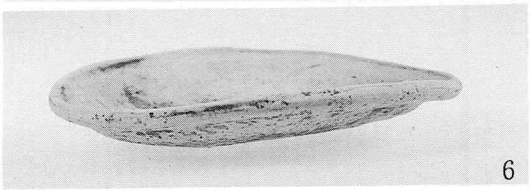

4

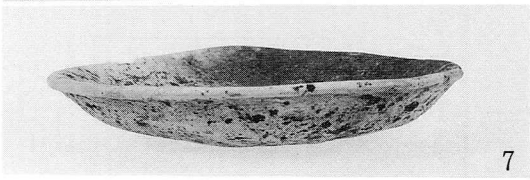


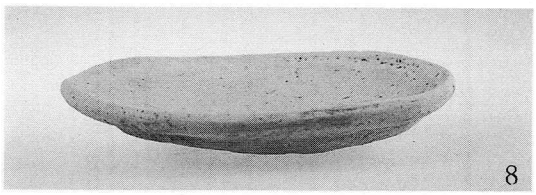
須恵器甕・土師器高坏

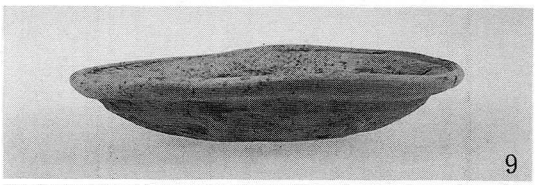
図版10　灰の詰った穴出土遺物（土師器小皿　その1）

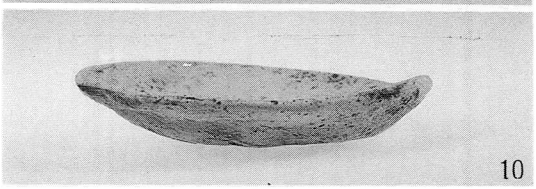

5

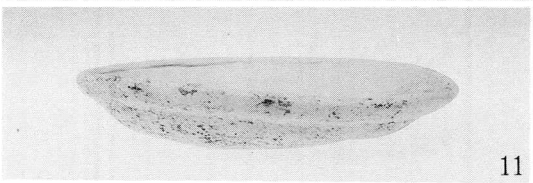

6

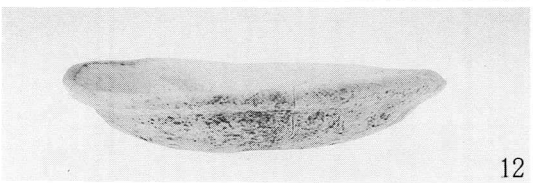

7

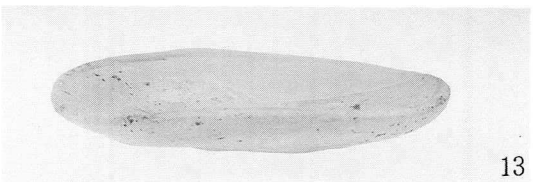

8

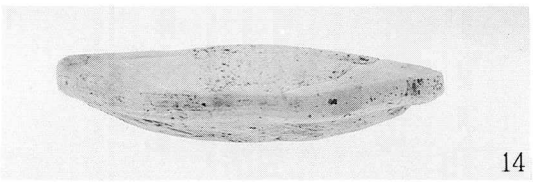

9

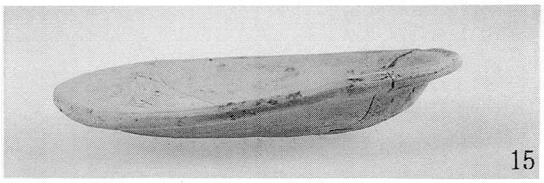

10

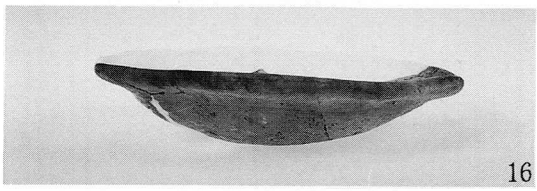

11

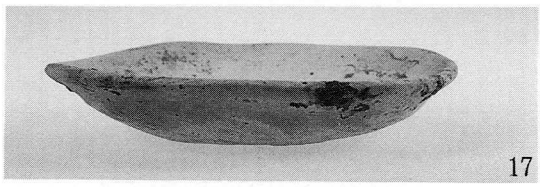

12

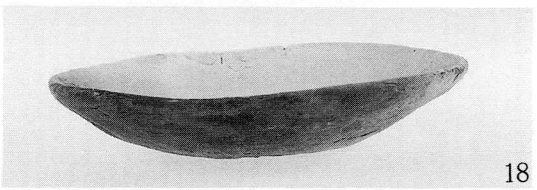

13

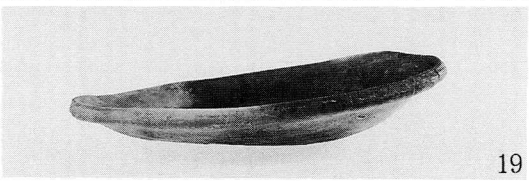

14

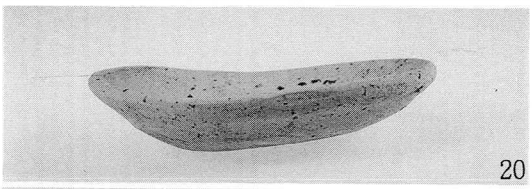

15

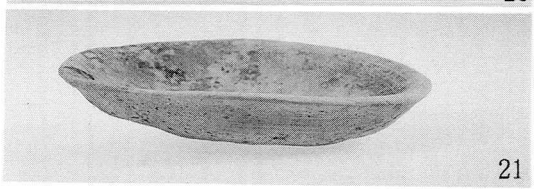

16

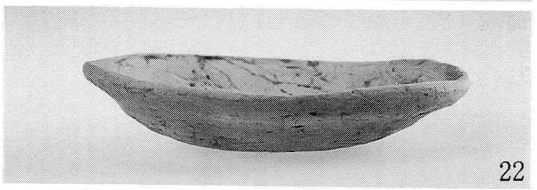

17

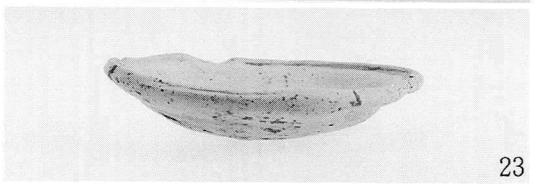

18

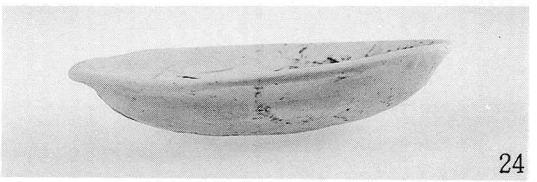

19


20

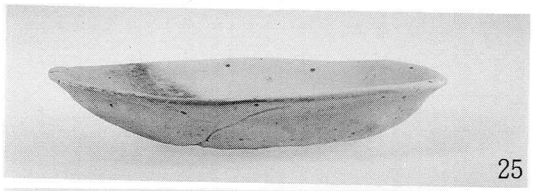

21

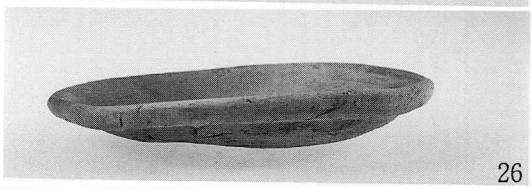

22

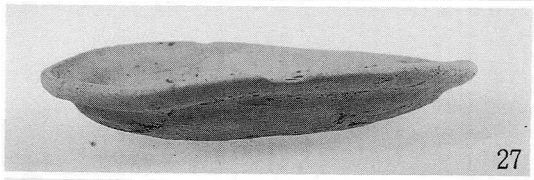

23

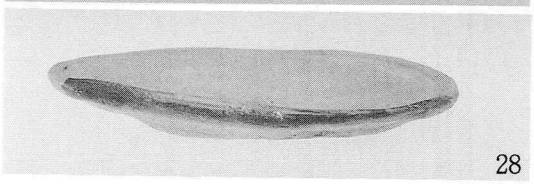

24

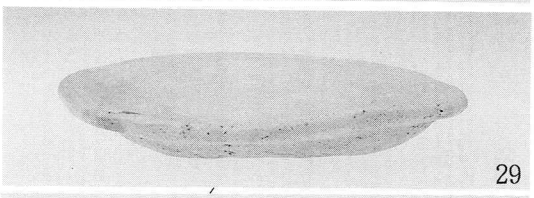
図版11　灰の詰った穴出土遺物（土師器小皿 その2）

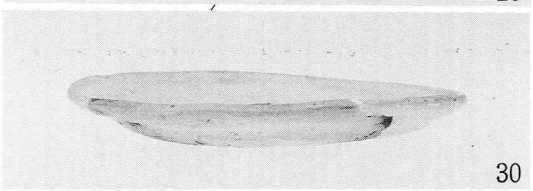

25

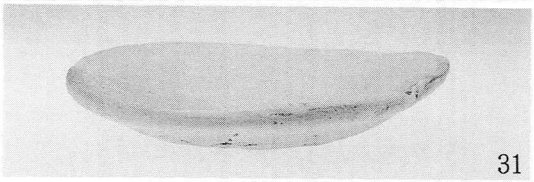

26

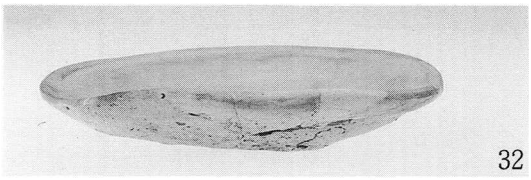

27

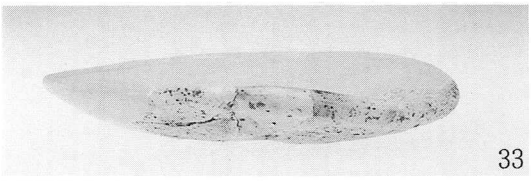

28

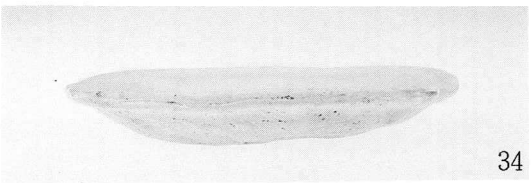

29

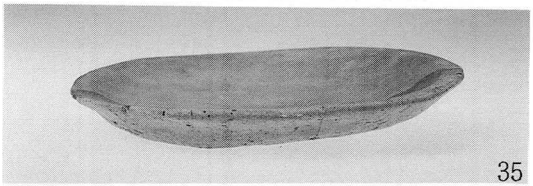

30

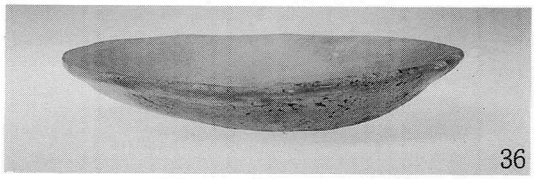

31

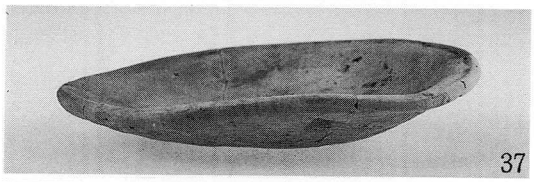

32

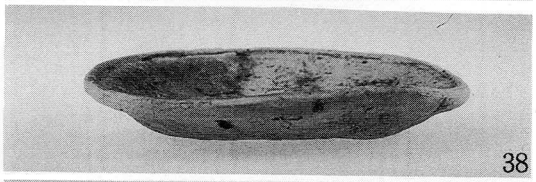

33


34

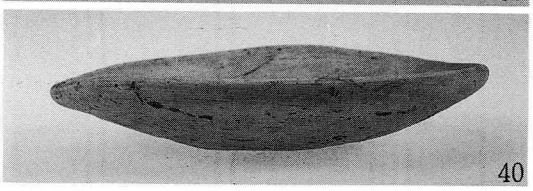

35

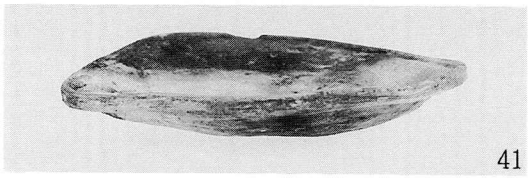

36

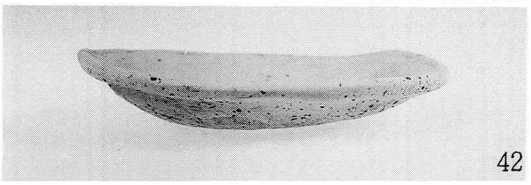

37

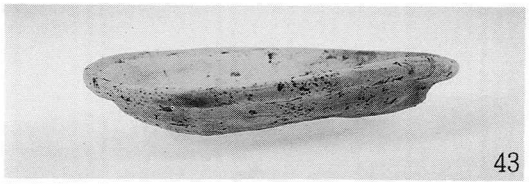

38

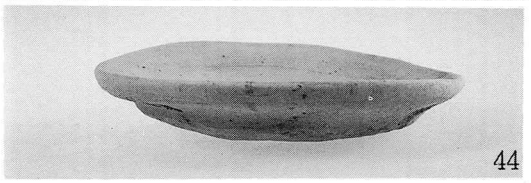
39


40

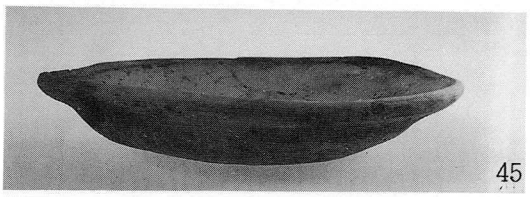

41

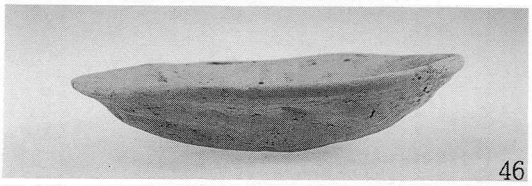

42

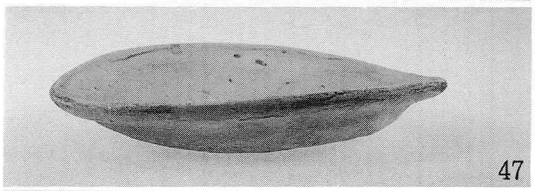

43

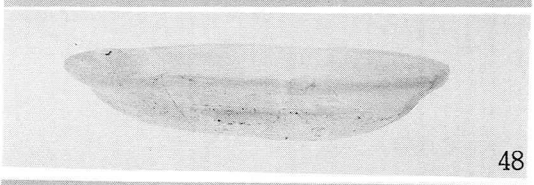

44

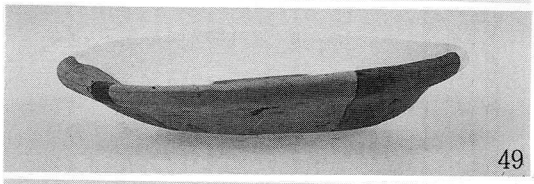
図版12　灰の詰った穴出土遺物（土師器小皿 その3）

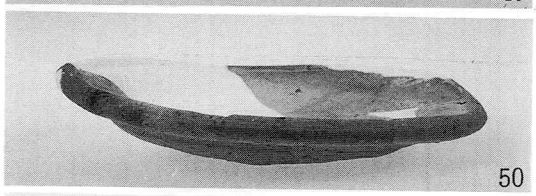

45


46

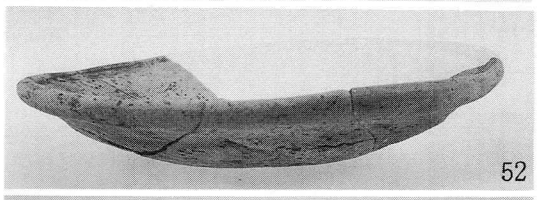

47

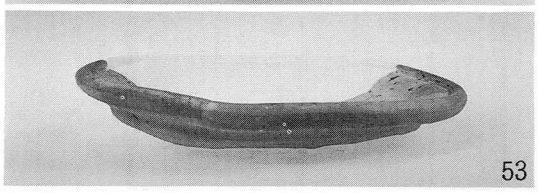

48

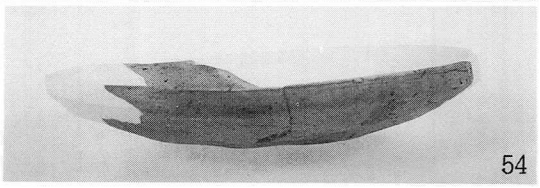

49

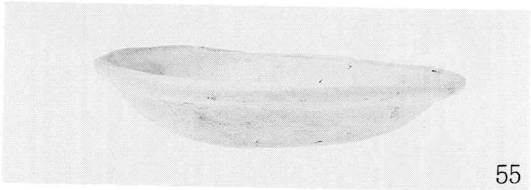

50

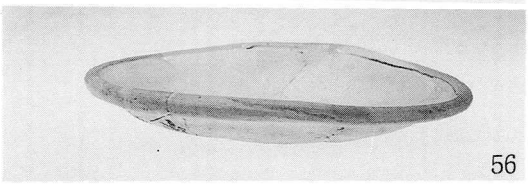
51

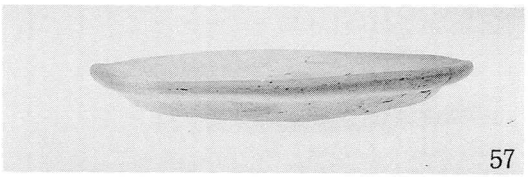

52

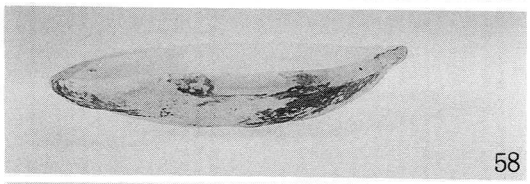

53

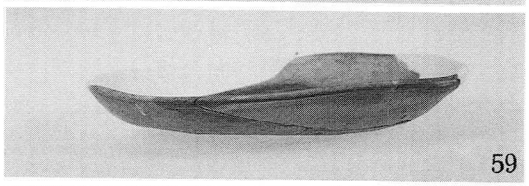

54

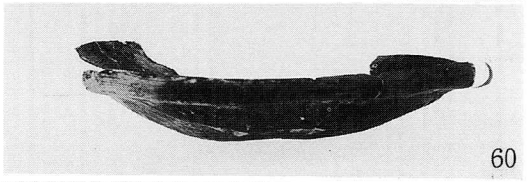

55

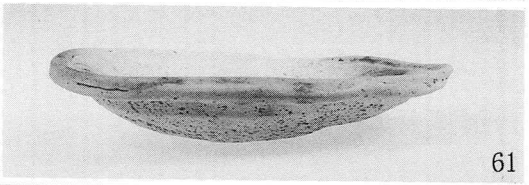

56

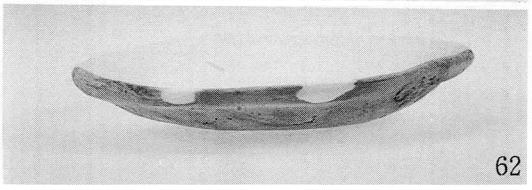

57

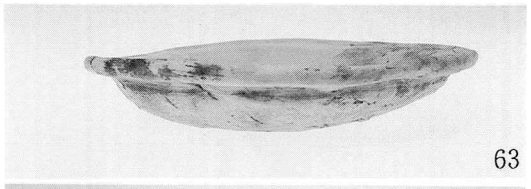

58

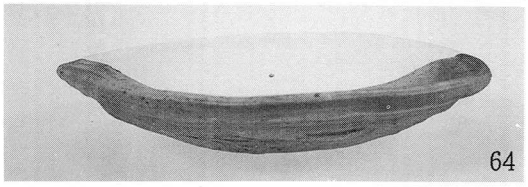

59


60

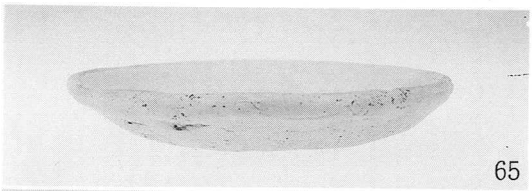

61

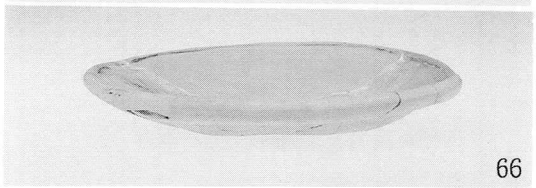

62

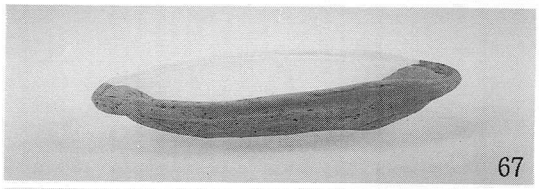

63

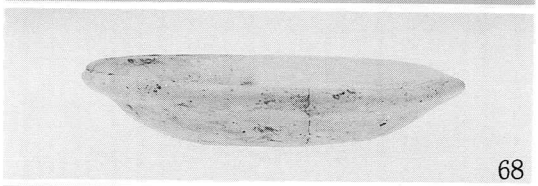

64

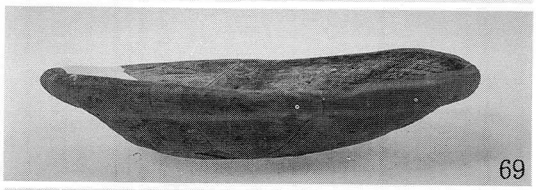
図版13　灰の詰った穴出土遺物（土師器小皿 その4）

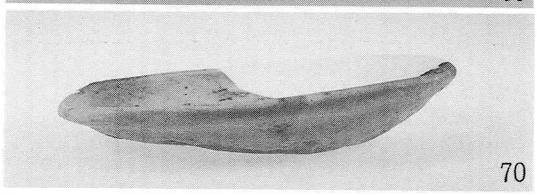

65

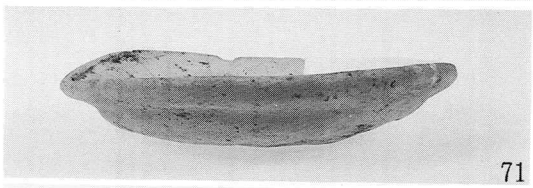

66

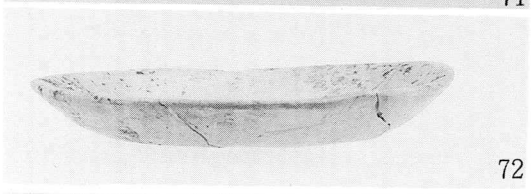

67

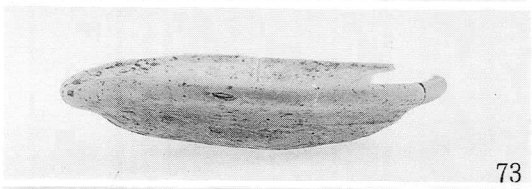

68

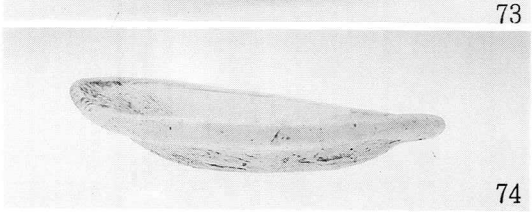

69

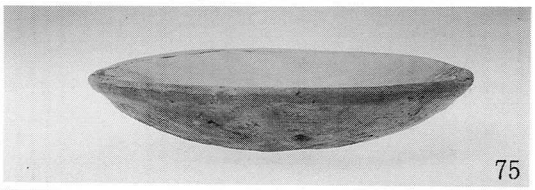

70

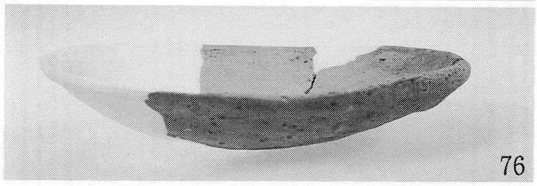

71

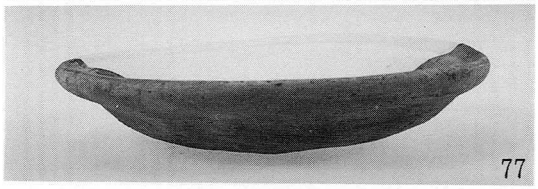

72

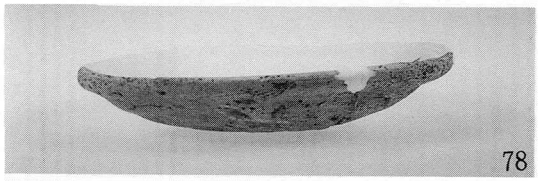

73

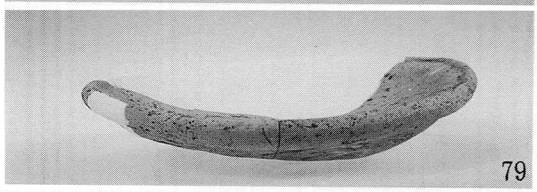

74

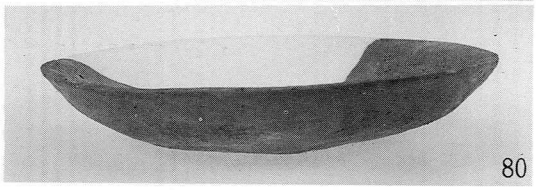

75

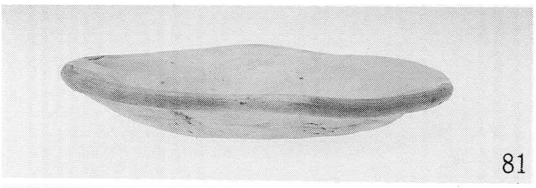

76

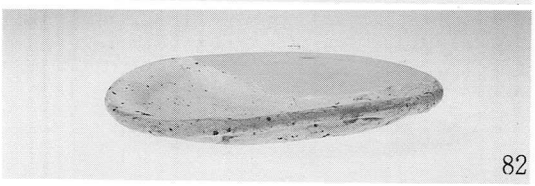

77

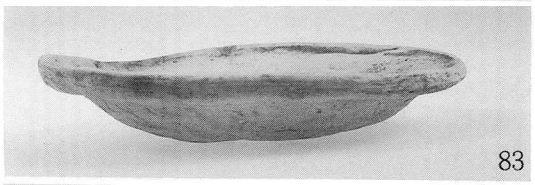

78

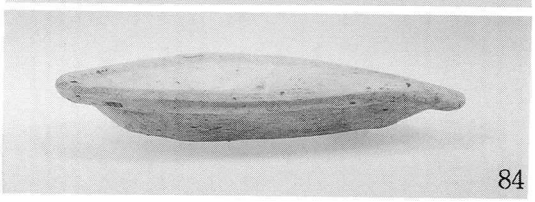

79


80

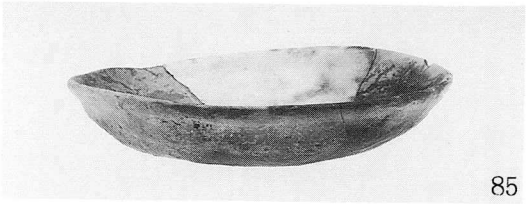

81

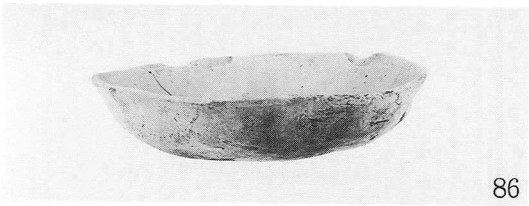

82

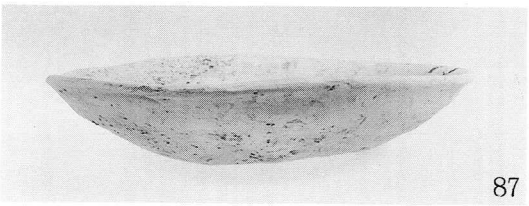

83

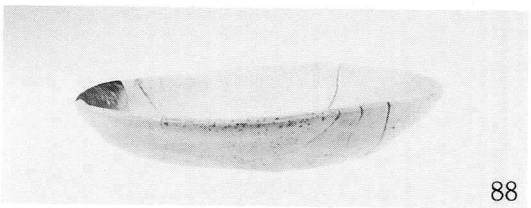

84

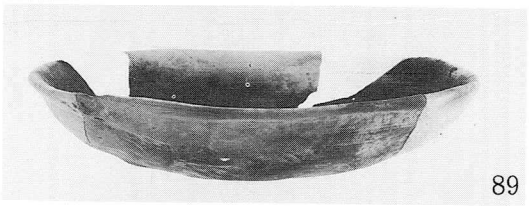
図版14　灰の詰った穴出土遺物（土師器大皿）

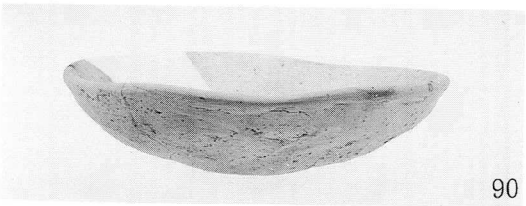

85

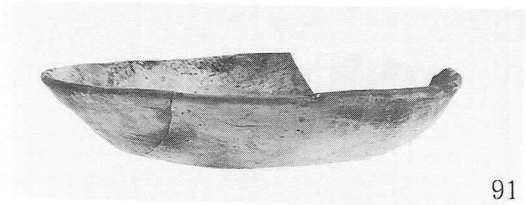

86

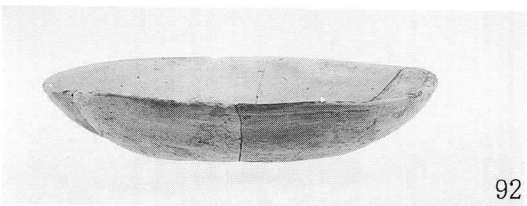

87

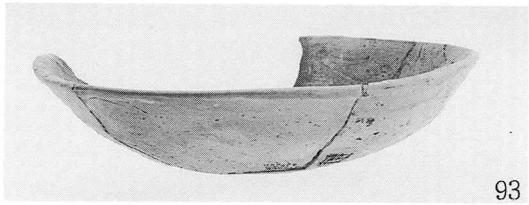

88

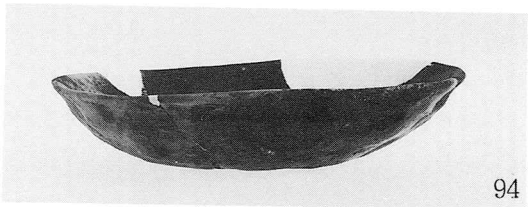

89

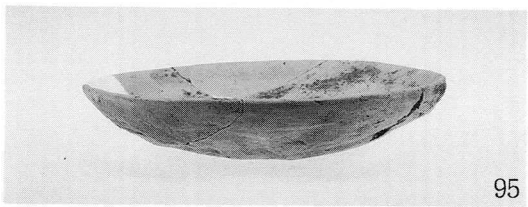

90

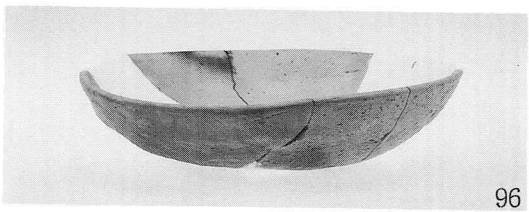

91

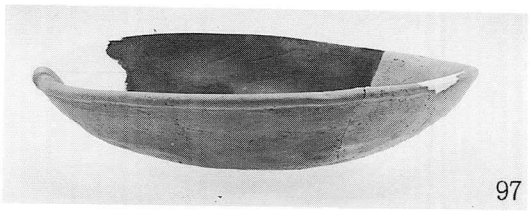

92

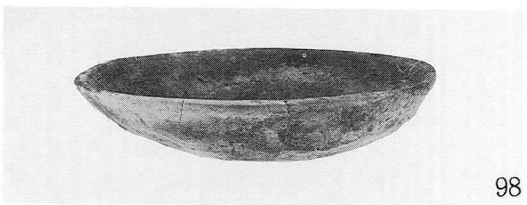

93

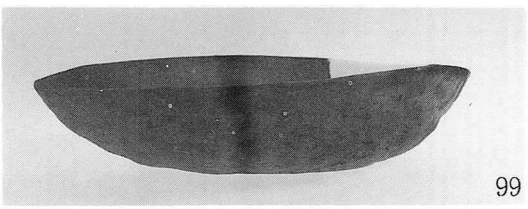

94

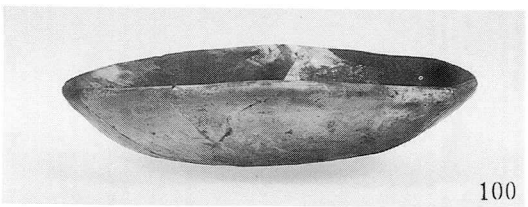

95


96

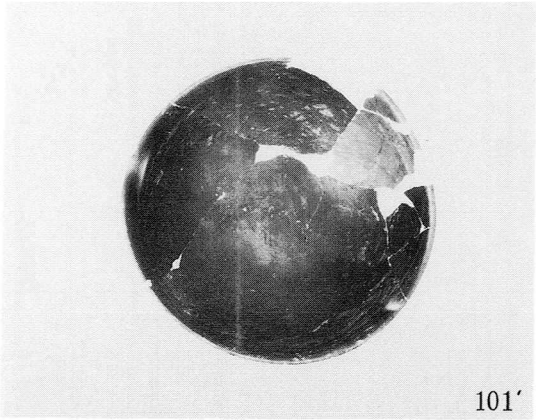

97

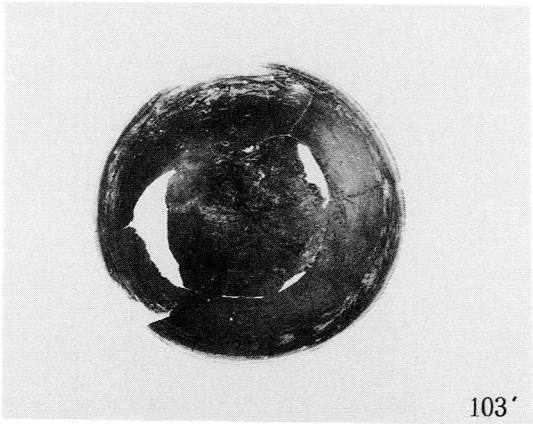

98


99


100

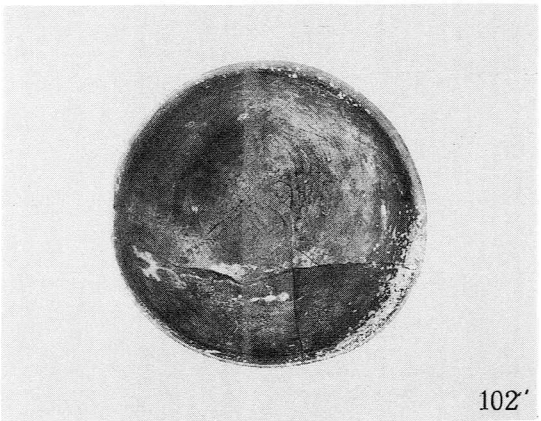
図版15　灰の詰った穴出土遺物（瓦器椀）

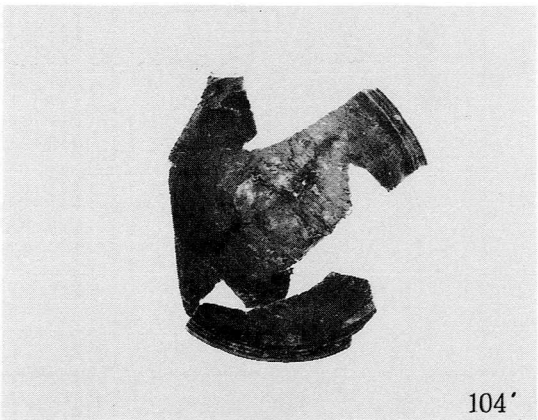

101′


103′

101

103

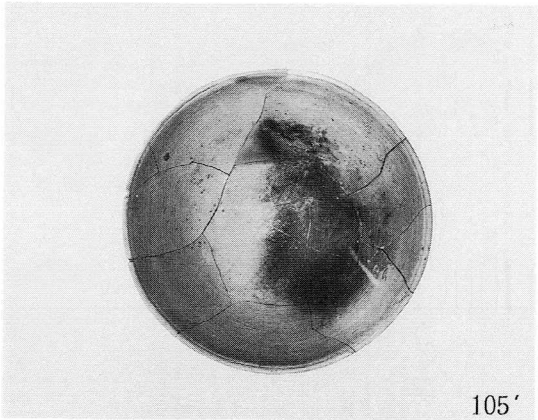

102′

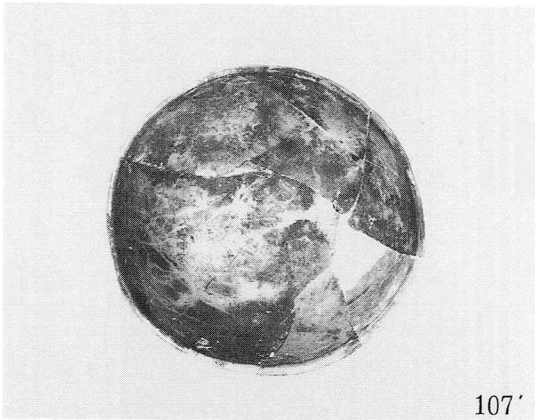

104′

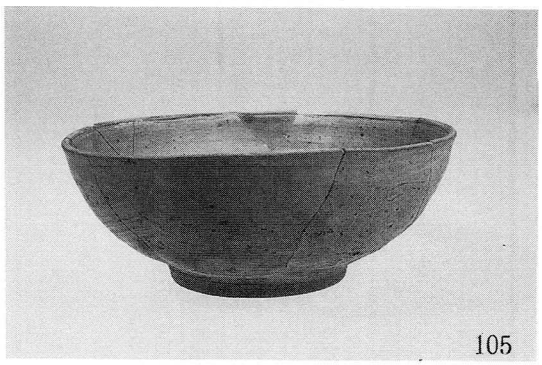
102

104

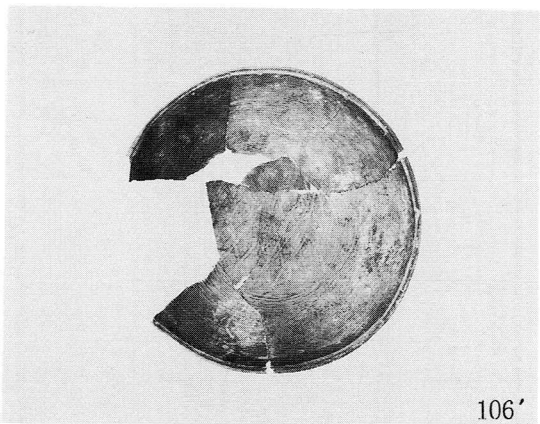
図版16　灰の詰った穴出土遺物（瓦器椀）

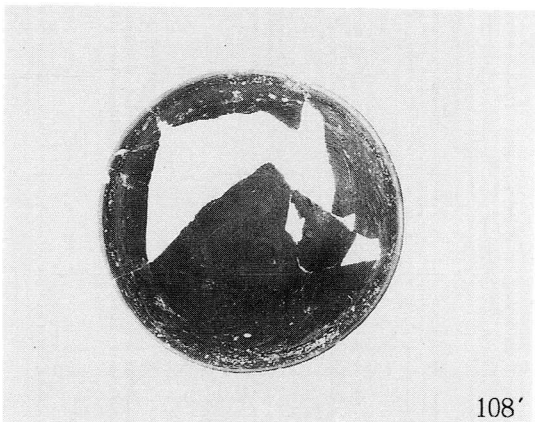

105′


107′


105

107

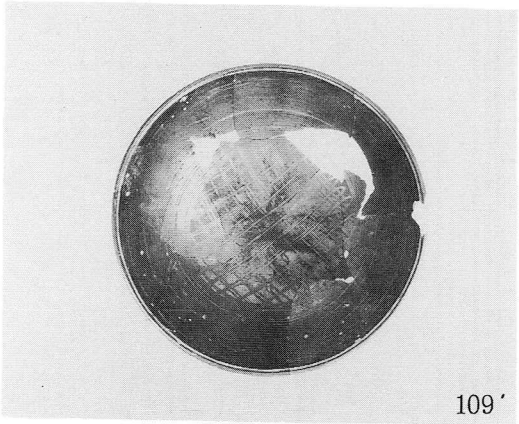

106′

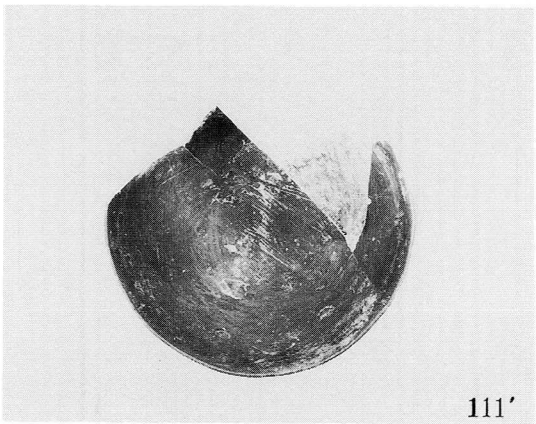

108′

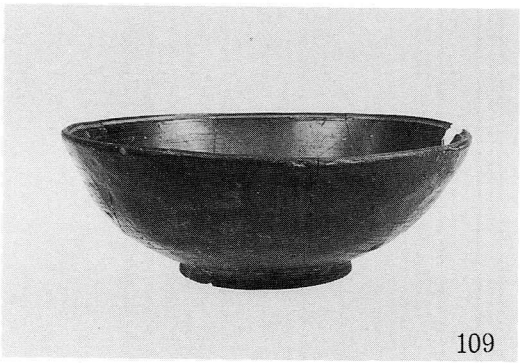
106

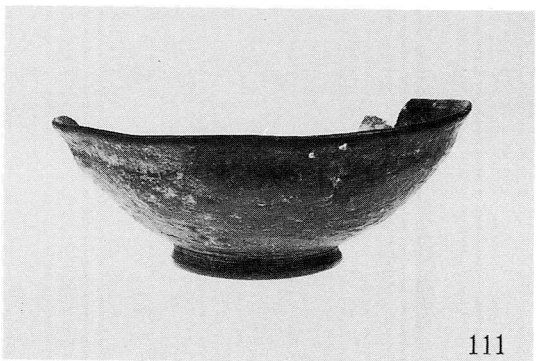
108

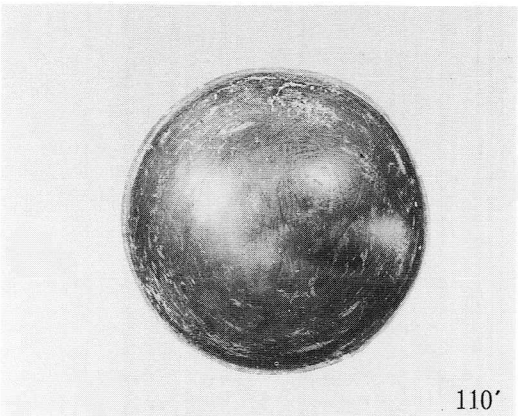
図版17　灰の詰った穴出土遺物（瓦器椀）

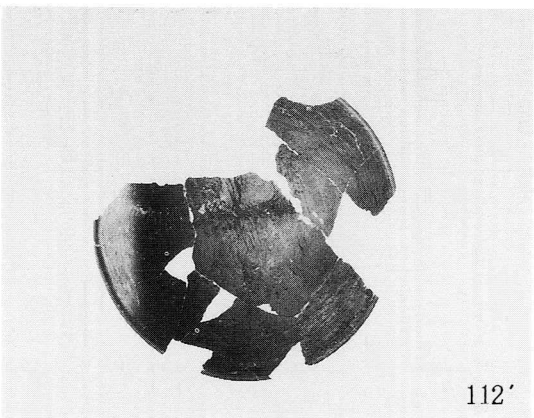

109′


111′

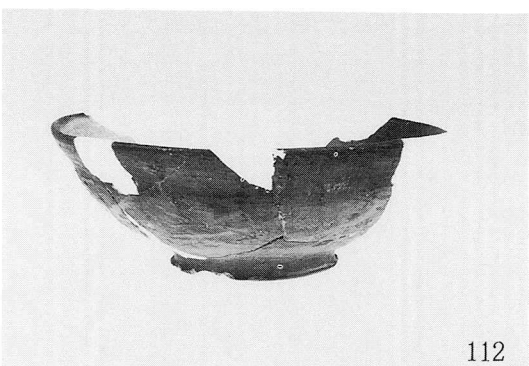

109


111

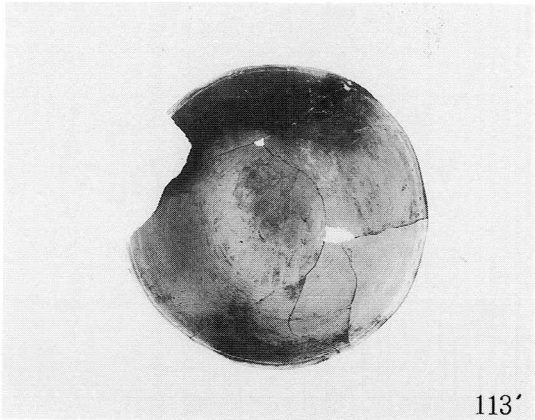

110′

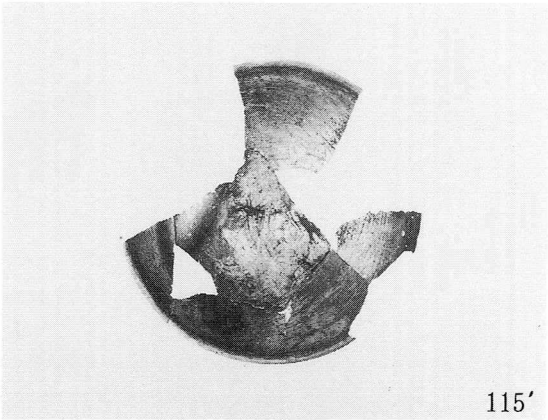

112′

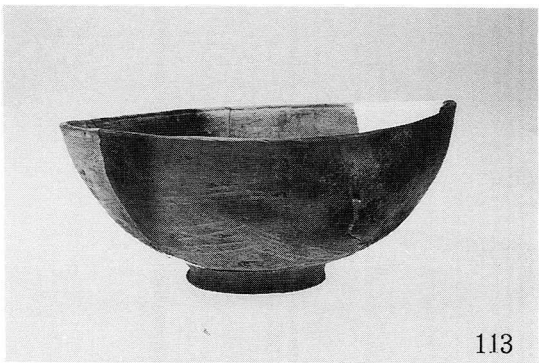
110


112

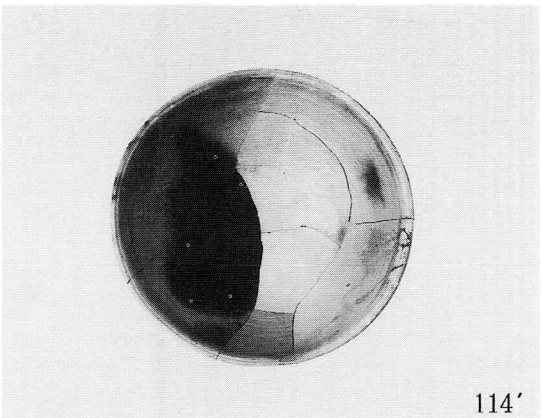
図版18　灰の詰った穴出土遺物（瓦器椀）

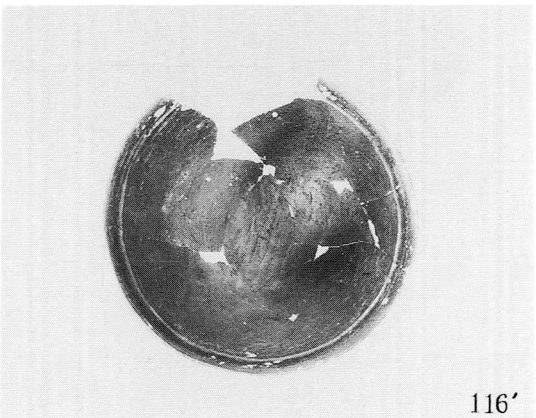

113′


115′


113

115

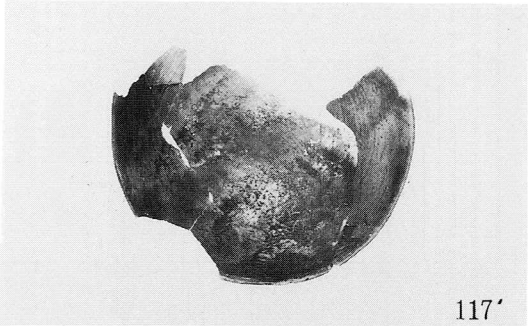

114′

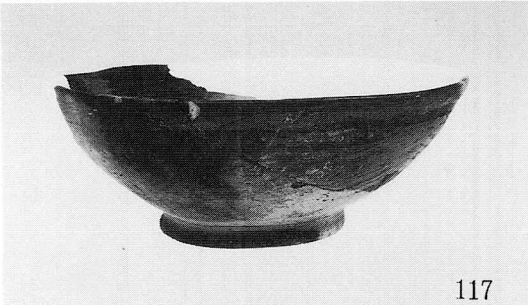

116′

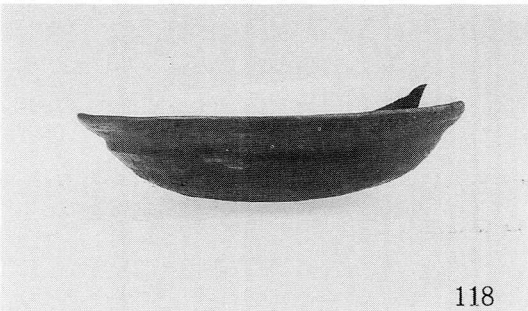
114

116

図版19　灰の詰った穴出土遺物（瓦器椀・皿　土師器甕）

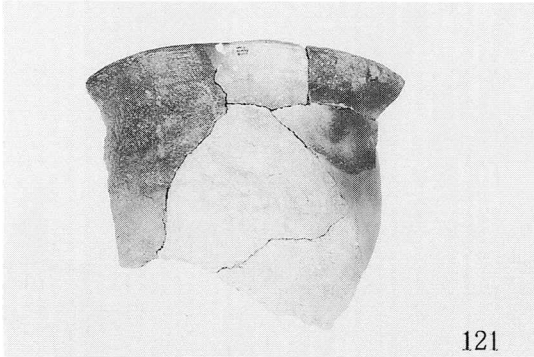

117′


117

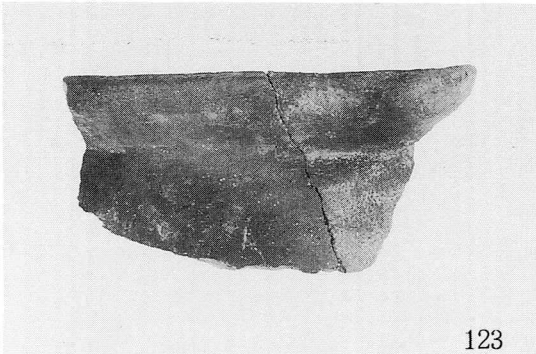

118

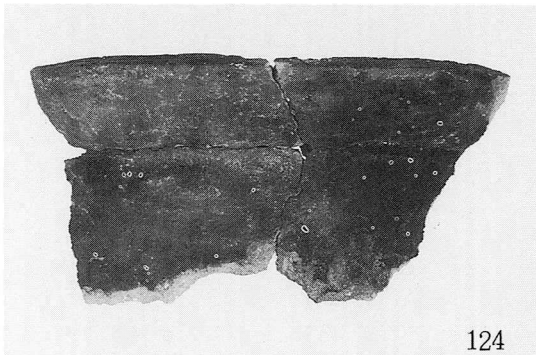
119

120


121

122

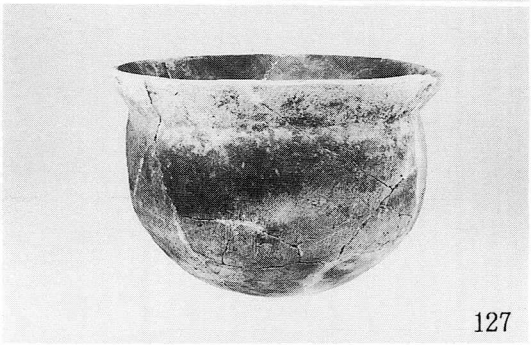

123


124

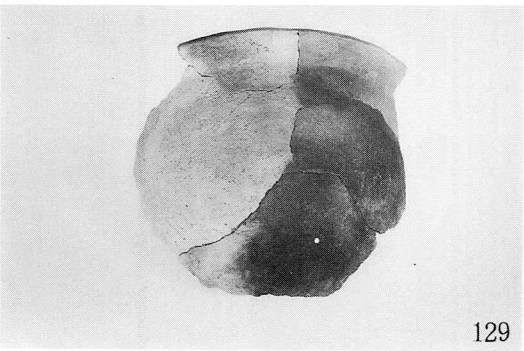
図版20　灰の詰った穴出土遺物（土師器甕・羽釜）

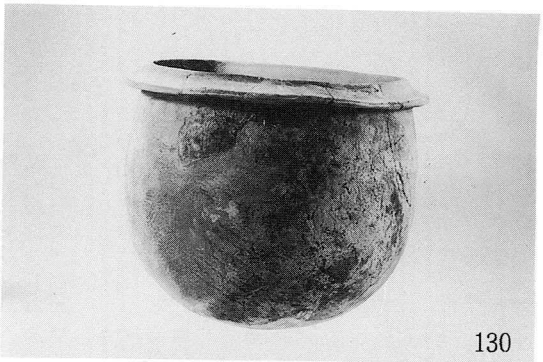
125

126

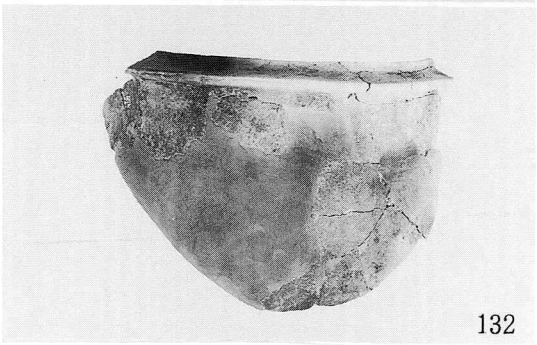

127

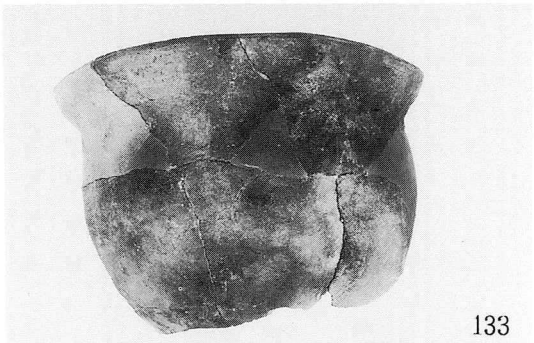
128

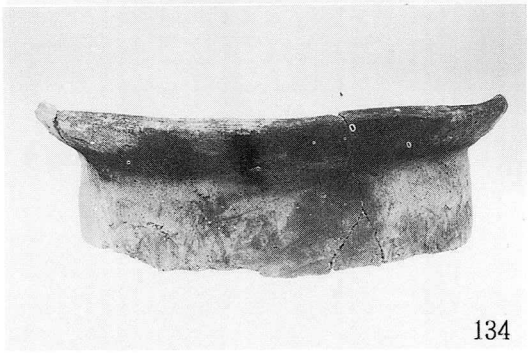

129


130

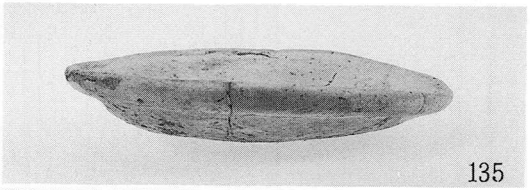
131

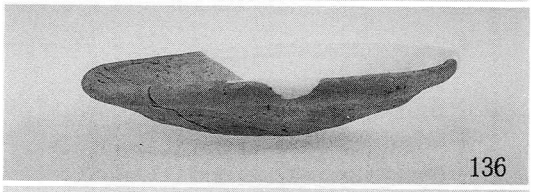

132

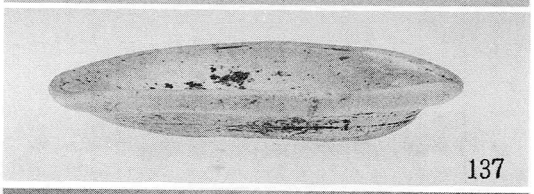

133

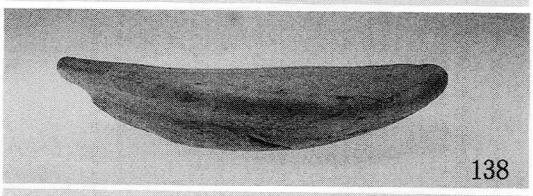

134

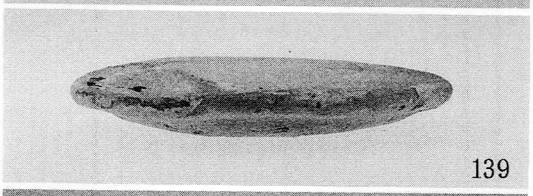
図版21　溝1出土遺物

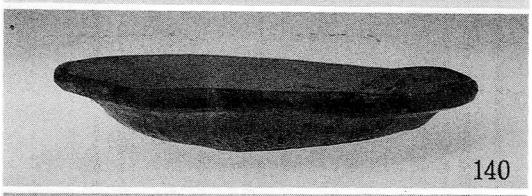

135

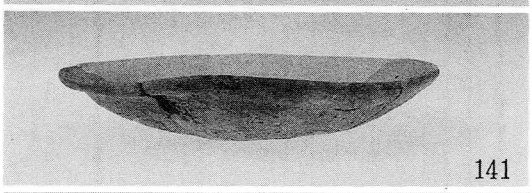

136

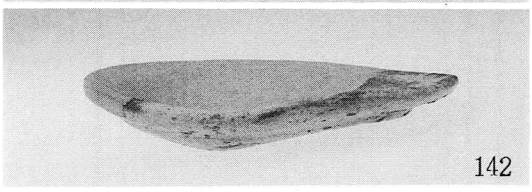

137

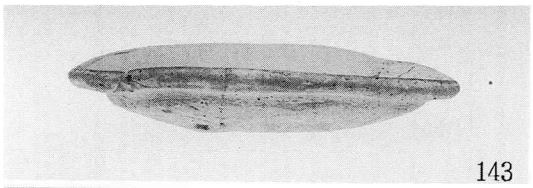

138

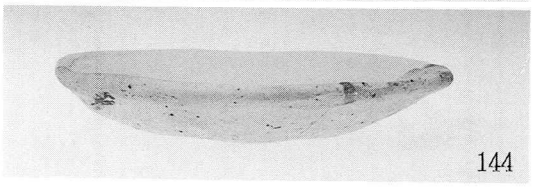

139

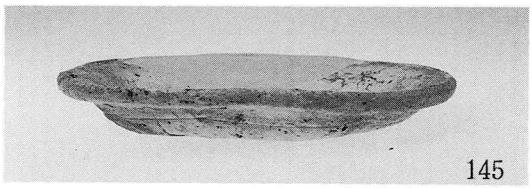

140

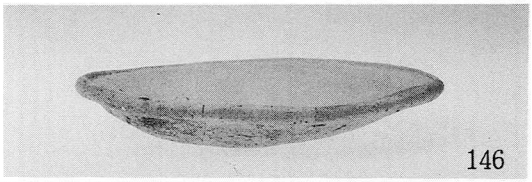

141

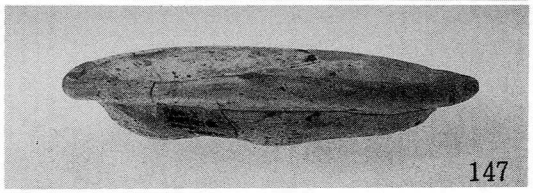

142

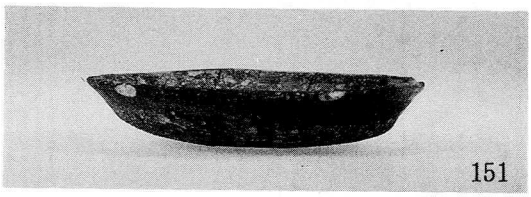

143

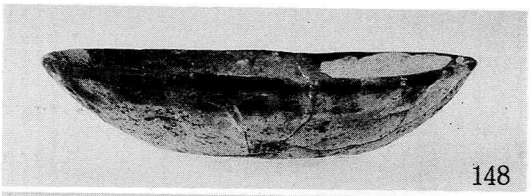

144

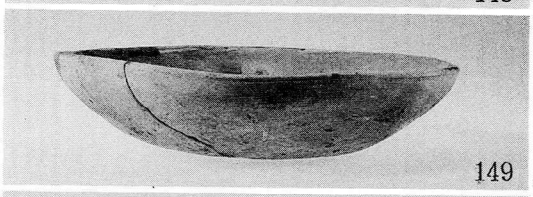

145


146


147

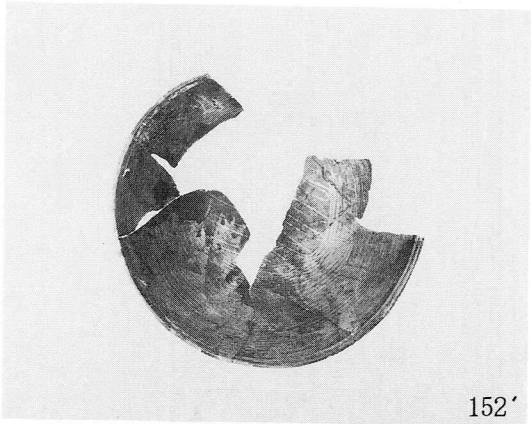

151

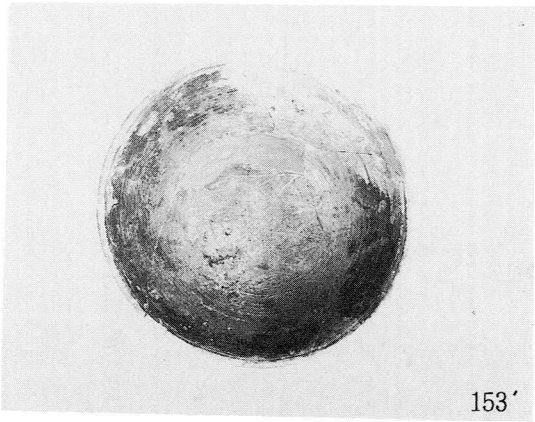

148

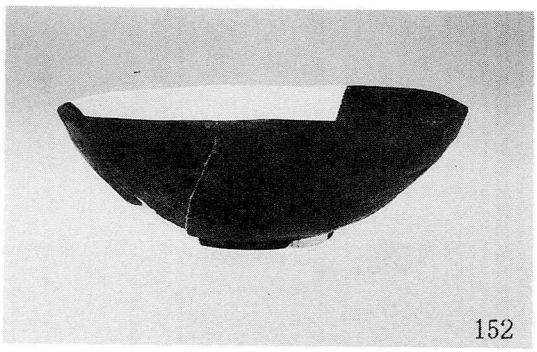

149

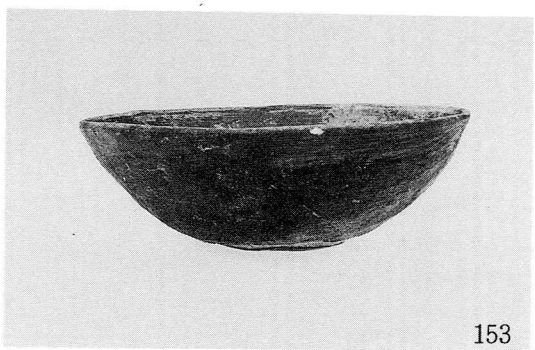
150

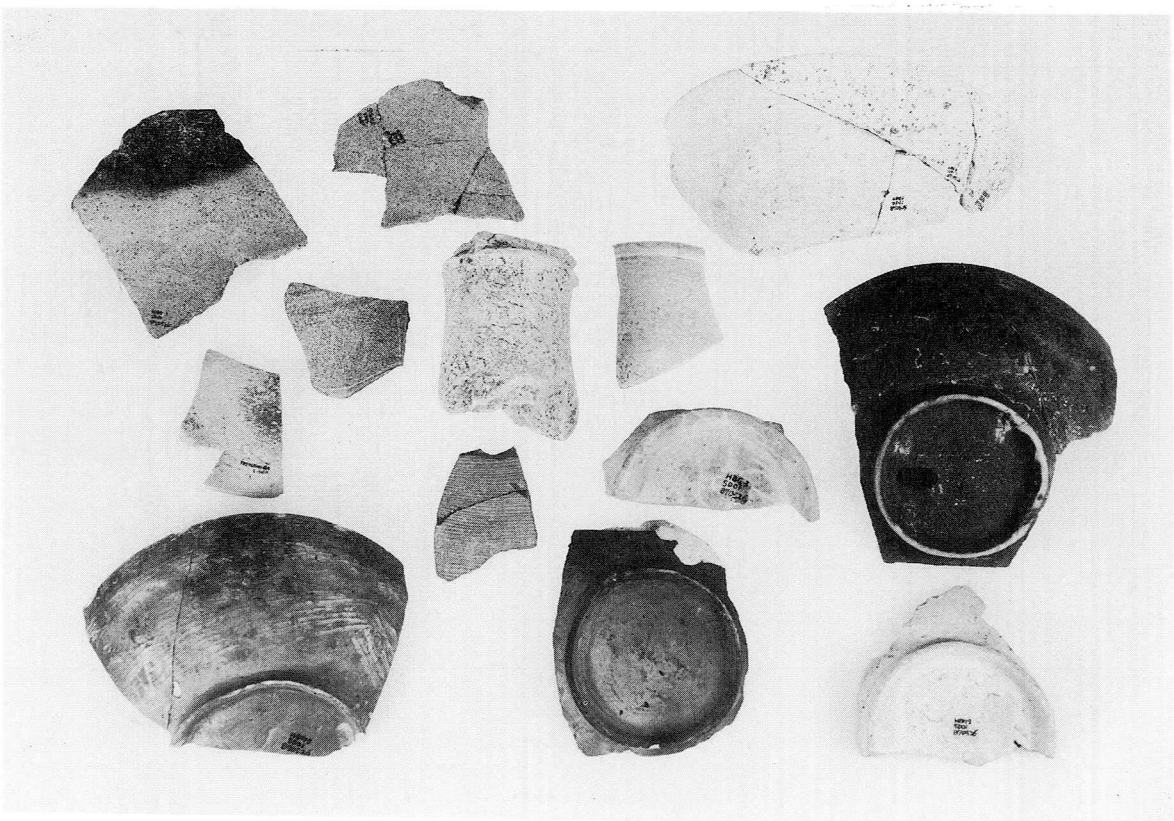
図版22　溝1出土遺物











弥生土器・須恵器・瓦器